参考資料

第三期大野市環境基本計画
大野市水循環基本計画
中間見直しに関する

アンケート調査結果報告書

令和７年７月

大野市くらし環境部環境・水循環課

目次

調査の概要・・・ 3

調査結果の概要・・・ 6

市民向けアンケートの調査結果・・・ 8

(1)属性・・・ 9

(2)周辺環境に対する満足度と重要度・・・ 10

(3)環境問題に対する関心度と重要度・・・ 14

(4)日常生活における取組状況・・・ 18

(5)地下水位の計測に関する認知度・・・ 23

(6)生物多様性に関する認知度・・・ 26

(7)カーボンニュートラルに関する認知度・・・ 27

(8)将来に残したい環境や場所、風景・・・ 28

(9)今後の市の環境保全に関する施策・・・ 29

(10)今後の市の水循環に関する施策・・・ 30

(11)自由意見・・・ 31

事業者向けアンケートの調査結果・・・ 33

(1)属性・・・ 34

(2)環境保全に対する考え方・・・ 35

(3)環境対策に取り組んでいる理由・・・ 36

(4)企業活動が周囲に与える環境負荷・・・ 37

(5)事業所の取組状況・・・ 38

(6)事業所の課題・・・ 43

(7)市に取り組んでほしい施策・・・ 44

(8)カーボンニュートラルに関する認知度・・・ 45

(9)事業所の取組事例・・・ 46

(10)自由意見・・・ 47

小学６年生・中学３年生向けアンケートの調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48
(1)属性・・ 49
(2)大切にしたい身近な環境・・ 50
(3)知りたい・学びたい環境問題・・ 51
(4)学校や家での取組状況・・・ 52
(5)周辺環境を守るためにできること・・ 53
(6)地下水位の計測・・ 54
(7)環境や水に関する仕事への関心・・ 55
(8)大野のお気に入りの場所や風景・・ 56

資料（調査票）・・ 57
(1)調査票_市民向けアンケート・・ 58
(2)調査票_事業者向けアンケート・・ 62
(3)小学６年生・中学３年生向けアンケート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 65

調査の概要

(1)調査の目的

令和３年度から令和１２年度の１０年間を計画期間とする第三期大野市環境基本計画及び大野市水循環基本計画の中間見直しを行うにあたり、生活環境や環境問題に対する関心度や満足度、日常生活または事業活動における取組状況などを把握することを目的として実施したものです。

(2)回収率

No.	調査対象者	配布数	回収数	回収率
①	市民	９００	３０３	３３．７%
②	事業所	１００	５３	５３．０%
③	小学６年生・中学３年生	４２１	３８８	９２．２%
総計		１,４２１	７４４	５２．４%

※①～③ごとに異なるアンケート調査を実施

(3)調査方法

No.	調査対象者	調査方法	
		抽出方法	配布・回収方法
①	市民	令和７年４月１日時点における以下の年齢区分ごとに均等人数を無作為抽出 ①１６歳～１９歳　１１３人 ②２０歳～２９歳　１１３人 ③３０歳～３９歳　１１３人 ④４０歳～４９歳　１１３人 ⑤５０歳～５９歳　１１３人 ⑥６０歳～６９歳　１１３人 ⑦７０歳～７９歳　１１３人 ⑧８０歳以上　１０９人 合計　９００人 ※外国人住民及び福祉施設入居者を除く	郵送配布・郵送回収またはWEB回収
②	事業所	国税庁法人番号サイトから市内事業所の情報を入手し、１００件を無作為抽出	郵送配布・郵送回収またはWEB回収
③	小学６年生・ 中学３年生	対象となる児童生徒全員	学校を通じた配布・回収

(4)配布・回収期間

No.	調査対象者	配布から回収までの期間
①	市民	令和７年４月１１日（金）～３０日（水）
②	事業所	
③	小学６年生・中学３年生	令和７年５月９日（金）～２６日（月）

(5)調査の項目

本調査の項目は以下のとおりです。

①市民向けアンケート

項目	設問の内容
問１　周辺環境に対する満足度と重要度	緑の豊かさ、川のきれいさ、街並みの美しさなど、 周辺環境に対する満足度と重要度
問２　環境問題に対する関心度と重要度	大気汚染、水質汚濁、ごみ問題など、 環境問題に対する関心度と重要度
問３～７　日常生活における取組状況	地下水保全、ごみ減量、省エネルギーなどに関する日常生活における取組状況
問８　地下水位の計測	地下水位の計測・周知を行っていることに対する認知度
問９　生物多様性	生物多様性という言葉と意味の認知度
問10　カーボンニュートラル	市のカーボンニュートラルの目標・取組に対する認知度
問11 将来に残したい環境や場所、風景	市の誇りや象徴として将来に残したい環境や場所、風景
問12　今後の市の環境保全に関する施策	重点的に進めるべき今後の市の環境保全に関する施策
問13　今後の市の水循環に関する施策	重点的に進めるべき今後の市の水循環に関する施策
問14～16　属性	性別、年齢、居住地区
問17　自由意見	市の取組に対する意見やアイデア

②事業者向けアンケート

項目	設問の内容
問1　経済活動と環境保全の関係に対する考え方	経済活動と環境保全の関係に対する考え方
問２　環境対策に取り組んでいる理由	環境対策に取り組んでいる理由
問３　企業活動が周囲に与える環境負荷	企業活動が周囲に与える環境負荷
問4～８　事業活動における取組状況	公害防止対策、地球温暖化防止、ごみ減量、地下水の保全などに関する事業活動における取組状況
問９　事業所の課題	環境に配慮した取組を実践する上での課題
問10 市に取り組んでほしい施策	市に取り組んでほしい施策
問11　カーボンニュートラル	市のカーボンニュートラルの目標・取組に対する認知度
問12～13　属性	業種、従業員規模
問14　事業所の取組事例	環境に配慮した取組で成果を得ることができた事例
問15　自由意見	市の取組に対する意見やアイデア

③小学６年生･中学３年生向けアンケート

項目	設問の内容
問１～2　属性	性別、学年
問３　大切にしたい身近な環境	緑の豊かさ、川のきれいさ、街並みの美しさなど、 大切にしたい周辺環境
問４　知りたい･学びたい環境問題	ごみ問題、気候変動問題、公害問題など、 知りたい･学びたいと思う環境問題
問５　学校や家での取組状況	節電、節水、食品ロスなどに関する学校や家での取組状況
問６　周辺環境を守るためにできること	ごみ拾い、緑化活動、農作業など、周辺環境を守るためにできること、参加したいこと
問７　地下水位の計測	地下水位の計測･周知を行っていることに対する認知度
問８　環境や水に関わる仕事への関心	将来的な市内での環境･水に関わる仕事への就職意向
問９～10　大野のお気に入りの場所や風景	おおのでのお気に入りの場所や風景

(1)市民向けアンケート

- 「周辺環境に対する市の施策の重要度」を問う設問について、市民は、緑や里山、動植物といった自然環境対策よりも、地下水、歴史・文化、街並みとった身近な生活環境対策を重要視していることがうかがえます。地下水保全の取組や伝統行事・文化財の保存継承に向けた取組、景観に配慮したまちづくりに向けた取組などを進めていく必要があります。

- 「環境問題に対する関心度」を問う設問について、総じて前回よりも関心度は高くなったものの、「大気汚染」「水質汚濁」「希少な動植物の減少」に関しては前回よりも低くなりました。これらの環境問題の悪化は、健康被害や自然共生意識の低下などの影響を及ぼすおそれがあるため、市民が必要とする情報を収集し、効果的に情報提供する取組が必要です。

- 「ごみ減量・循環型社会構築の取組状況」を問う設問で、９項目中７項目で、「取り組んでいる」「どちらかといえば取り組んでいる」と回答した人の割合が、前回よりも低くなりました。すべての項目で、おおむね60%以上と高い割合となっている一方で、意識が硬直・低下している可能性があります。市民が関心を持ちやすい方法で食品ロス削減やマイバック利用、マイボトル利用などの啓発を行うことが必要です。

- 「公害発生の防止の取組状況」を問う設問について、「環境に関する学習会等への参加」「環境に関する取り組みの情報収集」に取り組む人の割合が27～40%程度と低い水準となりました。環境に関する学習会等の質の向上や情報発信方法の改善などより、市民が主体的に環境問題に関心を持つことができるような取組が必要です。

- 「生物多様性という言葉の認知度」「市が掲げるカーボンニュートラルの目標（2035年にCO_2実質ゼロ）の認知度」を問う設問について、それぞれ知っている人の割合が50%を下回りました。いずれも10～40歳代で認知度が低い傾向にあり、これらの層をターゲットに効果的な情報発信と啓発活動を行うことが必要です。

- 「今後市が重点的に進めるべき施策」を問う設問について、「農地・山林の保全」を選んだ人の割合が最も高くなりました。農地や森林は、自然とふれあう活動の創出や野生動植物の保全、森林吸収源対策、農村景観の保全、水源の涵養など、多面的な役割を担っていることから、高齢化や担い手不足に対応し、適切な維持管理を継続するための取組が必要です。次いで、「災害対策・熱中症予防などの気候変動適応策」が高い割合となりました。熱中症や農作物被害、災害など、気候変動が健康や産業、気象などに与える影響について情報収集を行い、効果的に情報提供することが必要です。

(２)事業者向けアンケート

- 「環境対策に取り組んでいる理由」を問う設問について、「企業の社会的責任」と回答した事業者の割合が最も高くなりました。社会的責任だけでなく、コスト削減や事業収益の面でもメリットを見出してもらえるよう、脱炭素経営や循環型の事業活動を促進するための取組が必要です。
- 「地球温暖化防止・省エネルギーの取組状況」を問う設問について、「CO2削減目標等の管理」に取り組む事業者の割合は低い水準（３割以下）となりました。CO_2削減に対する事業者とってのメリットや目標を明確化するため、排出量の見える化を促すことが必要です。
- 「SDGs」「光害対策」に取り組んでいる事業者の割合が前回よりも大幅に上昇しました。この傾向を維持・上昇させていくため、SDGsの啓発活動やライトダウンキャンペーンの実施などに取り組んでいく必要があります。
- 「市に取り組んでほしい施策」を問う設問について、「設備導入に対する助成」「事業者の取組事例の情報発信」「「事業者向けの研修会」を求める事業者が多い傾向にあります。持続的な成長に必要となる設備導入への支援や、事業者向けの専門性の高いセミナーの開催、事業者の取組事例の情報発信などの取組が必要です。
- 「市が掲げるカーボンニュートラルの目標（2035年にCO_2実質ゼロ）の認知度」を問う設問について、知っている割合が50%を下回りました。市域の脱炭素化のために市民のみならず、事業者の取組が重要であるため、目標や取組内容に対する理解を促進する取組が必要です。

(３)小学６年生・中学３年生向けアンケート

- 「大切にしたい身近な環境」を問う設問について、「地下水のきれいさ」と答えた割合が前回を大きく下回りました。学校教育や社会教育などの機会を活用し、地下水保全や健全な水循環の重要性についての理解を高めるための取組が必要です。一方で、「星空の美しさ」を答えた割合が前回を大きく上回り、令和５年度の星空保護区認定により、星空に対する関心が高まったことが考えられます。
- 「知りたい・学びたい環境問題」を問う設問について、「自然が失われる問題」「絶滅しそうな生物がいる問題」が６割前後と全体のなかでも高い割合となっており、自然や生き物とふれあう機会の提供が必要です。
- 「学校や家での環境にやさしい行動の取組状況」を問う設問について、SDGsの普及などを背景に、子どもたちが身近なできることに取り組み、家庭生活や学校生活における環境配慮の基本的なマナーが定着していることがうかがえます。引き続き、マイバッグ活動や紙ごみの分別、環境にやさしい商品を選ぶことの大切さを若い世代に理解してもらうための啓発活動が必要です。
- 「将来市内で環境や水に関わる仕事につきたいか」を問う設問について、「思わない」「どちらかといえば思わない」と答えた割合が7割を超えました。環境や水に関わる仕事を実践している大人を紹介するなど、児童生徒の職業選択のモデルとなるような取組の啓発が必要です。

市民向けアンケートの調査結果

(1)属性

①性別（問14）

項目	今回（R7）		前回（R２）	
	回収数	割合	回収数	割合
男	140	46.2%	238	41.3%
女	152	50.2%	321	55.7%
回答しない・無回答　※	11	3.6%	17	3.0%
合計	303	100.0%	576	100.0%

※回答しないは「回答しない」という選択肢を選んだ人、無回答は空欄

②年齢別(問15)

項目	今回（R7）		前回（R２）	
	回収数	割合	回収数	割合
10代（16歳以上）	24	7.9%	51	8.9%
20代	26	8.6%	45	7.8%
30代	29	9.6%	60	10.4%
40代	37	12.2%	73	12.7%
50代	43	14.2%	80	13.9%
60代	60	19.8%	98	17.0%
70代	60	19.8%	100	17.4%
80代以上	21	6.9%	57	9.9%
無回答	3	1.0%	12	2.1%
合計	303	100.0%	576	100.0%

③居住地区(問16)

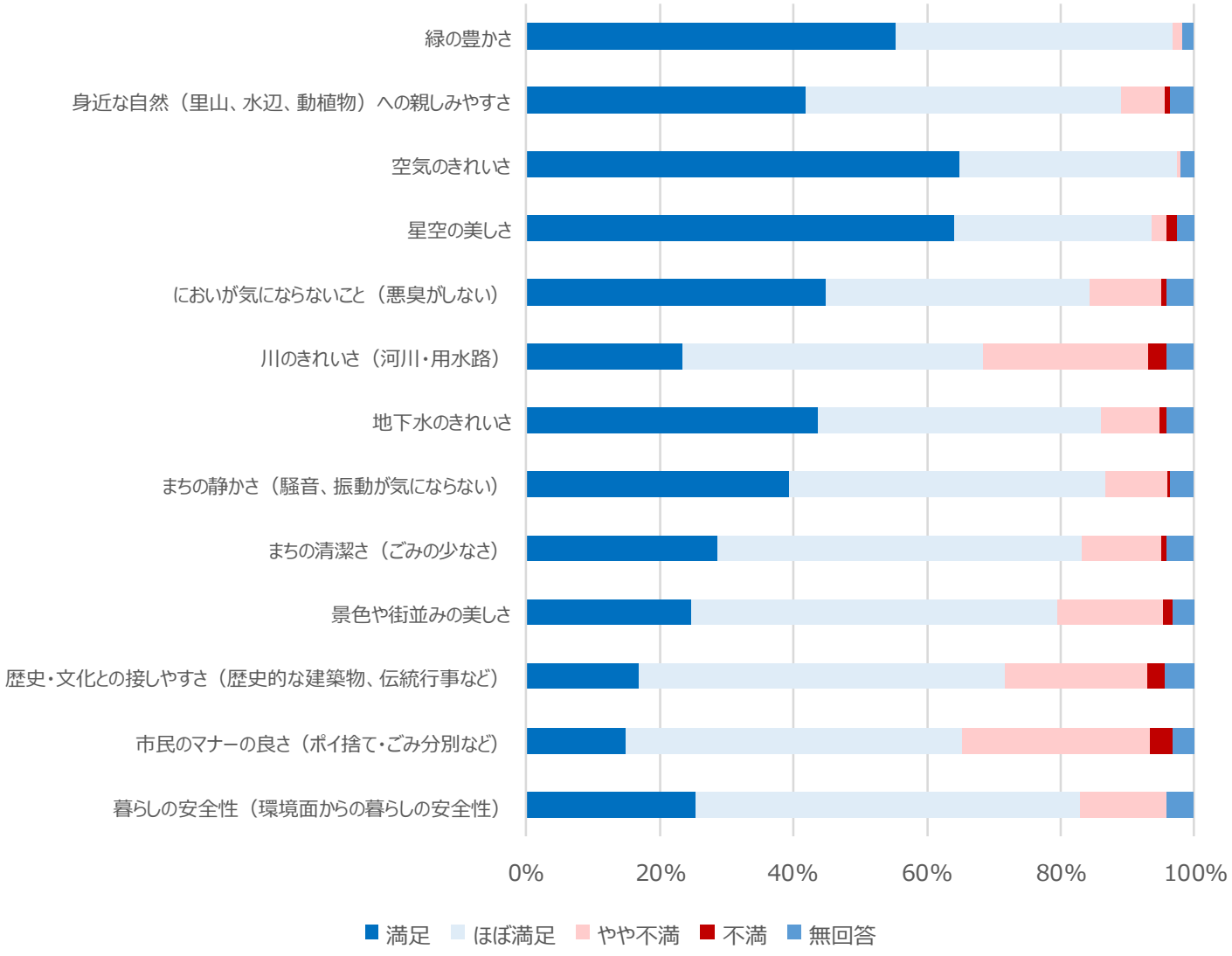
項目	今回（R7）		前回（R２）	
	回収数	割合	回収数	割合
大野地区	123	40.6%	242	42.0%
下庄地区	72	23.8%	124	21.5%
乾側地区	9	3.0%	16	2.8%
小山地区	10	3.3%	34	5.9%
上庄地区	39	12.9%	64	11.1%
富田地区	24	7.9%	49	8.5%
阪谷地区	11	3.6%	23	4.0%
五箇地区	0	0.0%	1	0.2%
和泉地区	8	2.6%	12	2.1%
わからない	3	1.0%	設問なし	—
無回答	4	1.3%	11	1.9%
合計	303	100.0%	576	100.0%

(2)周辺環境に対する満足度と重要度

【問１】
お住まいの周辺環境に対するあなたの「満足度」で当てはまるもの（１～４）を〇で囲んでください。
また、そのうち、「市の対策として重要と思う項目（＝重要度）」を３つ選び〇を付けてください。

①周辺環境に対する満足度

- 13項目中９項目で「満足」「ほぼ満足」と回答した人の割合が80%を超えるなか、「市民のマナーの良さ（ポイ捨て・ごみ分別など）」「川のきれいさ（河川・用水路）」「歴史・文化との接しやすさ（歴史的な建築物、伝統行事など）」「景色や街並みの美しさ」は80%を下回りました。
- 一方で、「空気のきれいさ」「緑の豊かさ」「星空の美しさ」は満足度が高く、市内の恵まれた自然環境に満足している人が多いことがうかがえます。



- 前回（令和２年度）の結果と比較すると、13項目中９項目で前回の満足度を上回りましたが、「身近な自然（里山、水辺、動植物）への親しみやすさ」「地下水のきれいさ」「景色や街並みの美しさ」「歴史・文化との接しやすさ（歴史的な建築物、伝統行事など）」の４項目は前回を下回りました。
- 総じて前回を上回った項目が多くなり、この傾向を維持・上昇させていくため、引き続き、公害防止や景観形成の取組など、快適な生活環境の保全に向けた取組が必要です。

項目	「満足」「ほぼ満足」と回答した人の割合		
	今回(R7) n=303	前回(R2) n=576	前回との差
緑の豊かさ	96.7%	93.1%	3.6
身近な自然（里山、水辺、動植物）への親しみやすさ	89.1%	90.1%	-1.0
空気のきれいさ	97.4%	95.0%	2.4
星空の美しさ	93.7%	91.7%	2.0
においが気にならないこと（悪臭がしない）	84.5%	83.2%	1.3
川のきれいさ（河川・用水路）	68.3%	65.3%	3.0
地下水のきれいさ	86.1%	88.5%	-2.4
まちの静かさ（騒音、振動が気にならない）	86.8%	85.6%	1.2
まちの清潔さ（ごみの少なさ）	83.2%	78.8%	4.4
景色や街並みの美しさ	79.5%	81.1%	-1.6
歴史・文化との接しやすさ（歴史的な建築物、伝統行事など）	71.6%	74.1%	-2.5
市民のマナーの良さ（ポイ捨て・ごみ分別など）	65.3%	62.8%	2.5
暮らしの安全性（環境面からの暮らしの安全性）	82.8%	77.8%	5.0

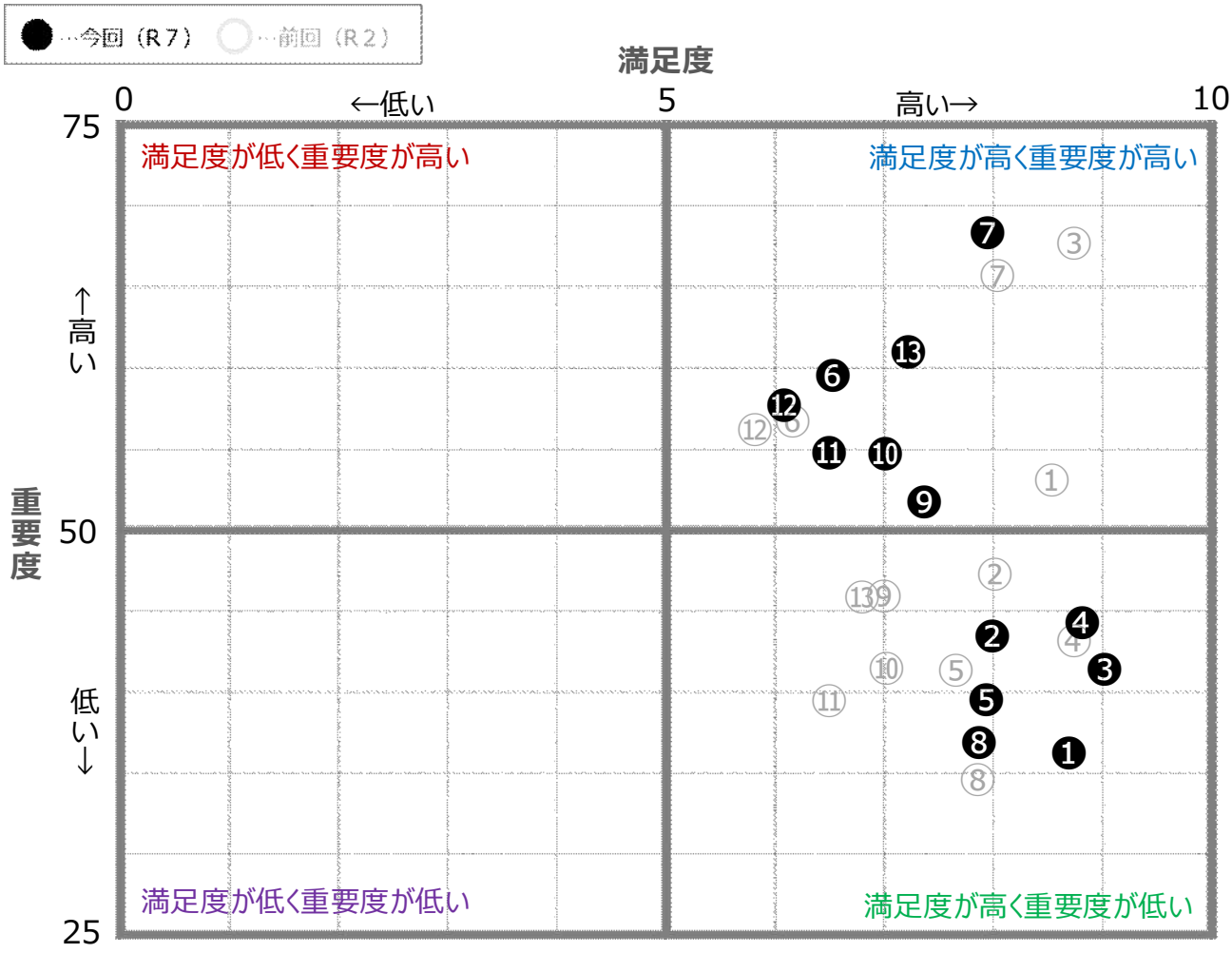
②満足度と重要度との相関関係

下図は、満足度と重要度（市の対策として重要と思う度合）を点数化し、相関関係をグラフ化したものです。満足度は「満足（10点）」「ほぼ満足（７点）「やや不満（３点）」「不満（０点）」として集計したものの平均値を点数としています。

重要度は、項目間で相対的に重要かどうかを示す値として、次の式で求めています。

重要度＝（特定の項目の〇が付いた個数－各項目の〇が付いた個数の平均値）÷標準偏差×10+50

※この算式は、学力テストでいう「偏差値」を求める算式と同じ考え方に基づいており、特定の項目で〇が付いた個数自体よりも、その項目が全体の中でどの位置いるのかを重視する意味合いがあります。例えば、重要度が50の項目の場合、その項目は項目全体の中は真ん中に位置することになります。



❶	緑の豊かさ	❽	まちの静かさ（騒音、振動が気にならない）
❷	身近な自然（里山、水辺、動植物）への親しみやすさ	❾	まちの清潔さ（ごみの少なさ）
❸	空気のきれいさ	❿	景色や街並みの美しさ
❹	星空の美しさ	⓫	歴史・文化との接しやすさ（歴史的な建築物、伝統行事など）
❺	においが気にならないこと（悪臭がしない）	⓬	市民のマナーの良さ（ポイ捨て・ごみ分別など）
❻	川のきれいさ（河川・用水路）	⓭	暮らしの安全性（環境面からの暮らしの安全性）
❼	地下水のきれいさ		

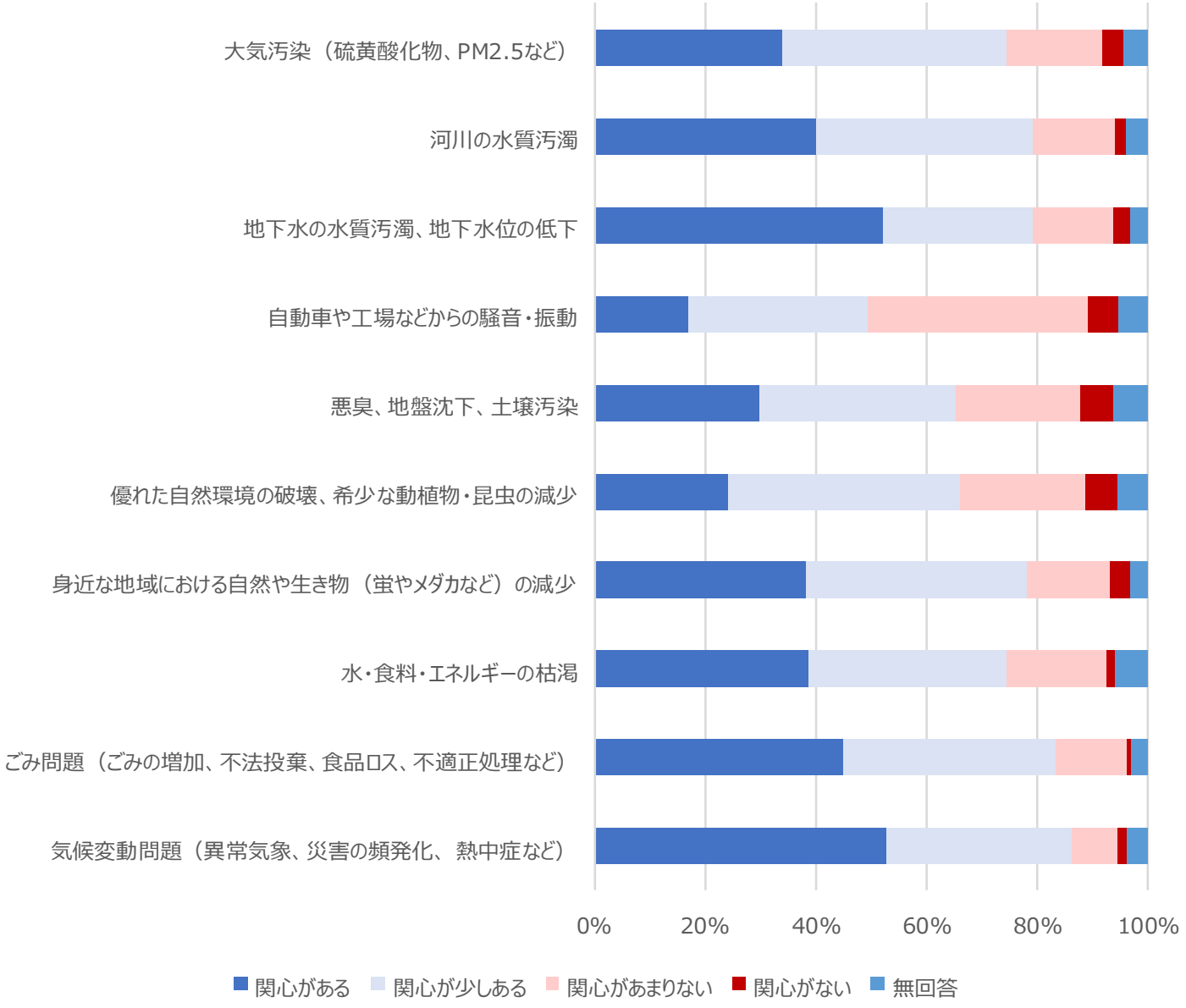
- 「満足度が低く重要度が高い（取組の必要性が高い）」項目は前回同様ありませんでした。
- 重要度が最も高かった項目は前回同様、「地下水のきれいさ」となりました。
- 重要度の前回からの上昇幅が大きかった項目の上位３つは、上昇幅が大きかったものから順に「歴史・文化との接しやすさ（歴史的な建築物、伝統行事など）」「暮らしの安全性（環境面からの暮らしの安全性）」「景色や街並みの美しさ」となりました。
- 一方で、前回からの下降幅が大きかった項目の上位３つは、下降幅が大きいものから順に「空気のきれいさ」「緑の豊かさ」「身近な自然（里山、水辺、動植物）」への親しみやすさ」となりました。
- 今回の結果だけを見ると、市民は、緑や里山、動植物といった自然環境対策よりも、地下水、歴史・文化、街並みとった身近な生活環境対策を重要と考えている人が多いことがうかがえます。引き続き、地下水汚染を発生させない取組や伝統行事・文化財の保存継承に向けた取組、景観に配慮したまちづくりに向けた取組などを進めていく必要があります。

(3)環境問題に対する関心度と重要度

【問２】
環境問題に対するあなたの「関心度」であてはまるもの（１～４）を〇で囲んでください。
また、そのうち、「市の対策として重要と思う項目（＝重要度）」を３つ選び〇を付けてください。

①環境問題に対する関心度

・「関心がある」「関心が少しある」と回答した人の割合が80%を超えた項目は、「気候変動問題」「ごみ問題」の２項目となり、地球規模で対策が求められている環境問題に強い関心を持っていることがうかがえます。



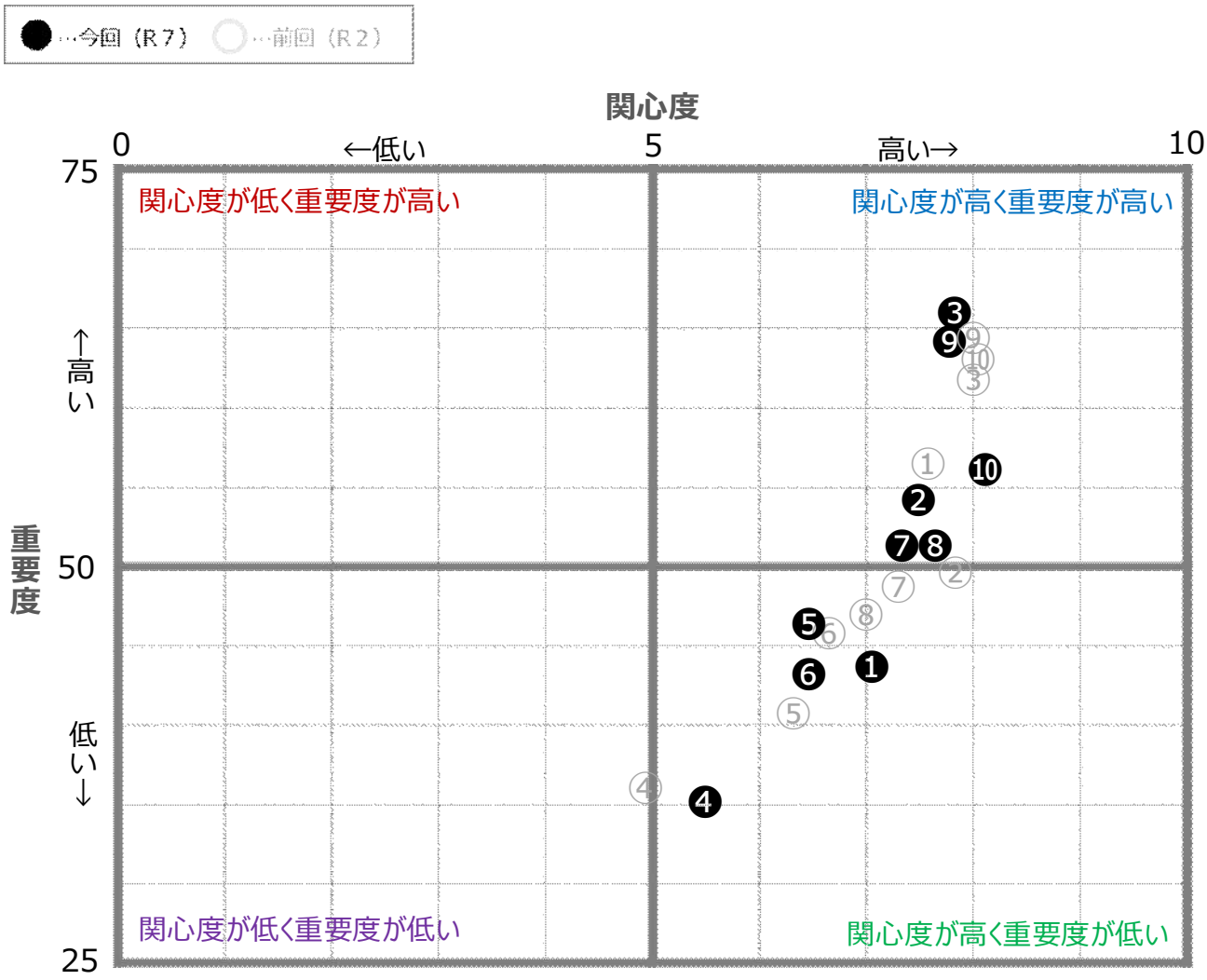
・前回の結果と比較すると、１０項目中７項目で「関心がある」「関心が少しある」と回答した人の割合が前回よりも高くなりました。

・「大気汚染（硫黄酸化物、PM2.5など）」「河川の水質汚濁」「地下水の水質汚濁、地下水位の低下」「優れた自然環境の破壊、希少な動植物・昆虫の減少」の４項目は前回よりも低くなりました。これらの環境問題の悪化は、健康被害や自然共生意識の低下などの影響を及ぼすおそれがあるため、関係する情報を収集し、市民や団体、事業者に対し情報提供する取組が必要です。

項目	「関心がある」「関心が少しある」と回答した人の割合		
	今回(R7) n=303	前回(R2) n=576	前回との差
大気汚染（硫黄酸化物、PM2.5など）	74.6%	78.3%	-3.7
河川の水質汚濁	79.2%	81.8%	-2.6
地下水の水質汚濁、地下水位の低下	79.2%	82.1%	-2.9
自動車や工場などからの騒音・振動	49.5%	45.0%	4.5
悪臭、地盤沈下、土壌汚染	65.3%	59.5%	5.8
優れた自然環境の破壊、希少な動植物・昆虫の減少	66.0%	68.8%	-2.8
身近な地域における自然や生き物（蛍やメダカなど）の減少	78.2%	76.4%	1.8
水・食料・エネルギーの枯渇	74.6%	71.0%	3.6
ごみ問題（ごみの増加、不法投棄、食品ロス、不適正処理など）	83.2%	82.6%	0.6
気候変動問題（異常気象、災害の頻発化、熱中症など）	86.1%	84.4%	1.7

②関心度と重要度との相関関係

下図は、関心度と重要度（市の対策として重要と思う度合）を点数化し、相関関係をグラフ化したものです。
関心度は「関心がある（10点）」「関心が少しある（７点）「関心があまりない（３点）」「関心がない（０点）」として集計したものの平均値を点数としています。
重要度の点数化の方法は、前述のとおりです。



❶	大気汚染（硫黄酸化物、PM2.5など）	❻	優れた自然環境の破壊、希少な動植物・昆虫の減少
❷	河川の水質汚濁	❼	身近な地域における自然や生き物（蛍やメダカなど）の減少
❸	地下水の水質汚濁、地下水位の低下	❽	水・食料・エネルギーの枯渇
❹	自動車や工場などからの騒音・振動	❾	ごみ問題（ごみの増加、不法投棄、食品ロス、不適正処理など）
❺	悪臭、地盤沈下、土壌汚染	❿	気候変動問題（異常気象、災害の頻発化、熱中症など）

- 各項目の散布はおおむね前回同様となりました。
- 「満足度が低く重要度が高い（取組の必要性が高い）」項目は前回同様ありませんでした。
- 重要度が最も大きい項目は、「地下水の水質汚濁、地下水位の低下」となりました。（前回は「ごみ問題」）
- 前回から重要度が最も上昇した項目は「悪臭、地盤沈下、土壌汚染」となり、最も下降した項目は「大気汚染（硫黄酸化物、PM2.5など）」となりました。
- 「環境問題に対する市の対策の重要度」を問う設問について、「気候変動問題（異常気象、災害の頻発化、熱中症など）」に対する重要度が前回よりも大きく低下しました。自然環境・産業への影響や熱中症対策など、市民が必要とする情報を効果的に提供する方法を検討する必要があります。

(４)日常生活における取組状況

①地下水・湧水・河川の保全

【問３】

【地下水・湧水・河川の保全】に関して、あなたの取組状況で当てはまるもの（１～４）を○で囲んでください。また、「取り組んでいない」「どちらかといえば取り組んでいない」を選んだ場合は、下記欄から最も近い理由を１つ選び番号で記入してください。

＜下記欄＞

・生活の便利さ快適さがなくなるから	・取り組む機会がないから
・費用がかかるから	・取り組み方がわからないから
・手間や時間がかかるから	・特に気にかけていないから
・効果に疑問があるから	・その他

- ８項目中５項目で、「取り組んでいる」「どちらかといえば取り組んでいる」と回答した人の割合が前回よりも低くなりました。一方で、「融雪に地下水を使用しない」と回答した人の割合は前回よりも高くなりました。
- 「雨水タンク」「雨水浸透設備」の設置状況について、取り組んでいる人の割合は10%以下となり、更なる普及に向けた取組が必要です。
- 「水路等の清掃活動」「湧水地や河川環境に触れ合うイベント等」に参加している人の割合は前回を下回り、地域住民の自発的な環境保全活動を促す取組が必要です。

項目	「取り組んでいる」「どちらかといえば取り組んでいる」人の割合 n=303	前回（R2） n=576	前回との差	取り組まない理由で最も多かったもの
蛇口やシャワーをこまめに止めるなど、節水を心がけている	87.5%	89.3%	-1.8	特に気にかけていないから(35%)
洗濯機、シャワーやトイレなどは節水型のものを使用している	66.0%	73.3%	-7.3	費用がかかるから(39%)
融雪には、地下水を使用しないようにしている	74.3%	72.7%	1.6	生活の便利さや快適さがなくなるから(17%)
雨水タンクなどを設置して有効活用している	4.3%	設問なし	—	特に気にかけていないから(23%)
雨水浸透設備など、雨水の地下浸透に取り組んでいる	7.6%	設問なし	—	取り組み方がわからないから(27%)
下水道や農業集落排水に接続している。または合併浄化槽を設置している	60.1%	67.5%	-7.4	費用がかかるから(28%)
用水や水路の清掃活動に参加している	60.7%	63.7%	-3.0	取り組む機会がないから(47%)
湧水地や河川環境に触れ合うイベントや保全活動に参加している	26.4%	31.9%	-5.5	取り組む機会がないから(43%)

②ごみ減量・循環型社会構築

【問４】

【ごみ減量・循環型社会構築】に関して、あなたの取組状況で当てはまるもの（１～４）を〇で囲んでください。また、「取り組んでいない」「どちらかといえば取り組んでいない」を選んだ場合は、下記欄から最も近い理由を１つ選び番号で記入してください。

＜下記欄＞

・生活の便利さ快適さがなくなるから	・取り組む機会がないから
・費用がかかるから	・取り組み方がわからないから
・手間や時間がかかるから	・特に気にかけていないから
・効果に疑問があるから	・その他

- ９項目中７項目で、「取り組んでいる」「どちらかといえば取り組んでいる」と回答した人の割合が、前回よりも低くなりました。すべての項目で、おおむね60％以上と高い水準となっている一方で、意識が硬直・低下している可能性があります。食品ロス削減やマイバック利用、マイボトル利用などの啓発を、市民が関心を持ちやすい方法で取り組むことが必要です。
- 「プラスチックごみを正しく分別して出す人」の割合は78.2%となっており、ある程度理解が広まったと考えられる一方で、取り組まない理由で「取り組み方がわからない」と回答した人が最も多いことから、引き続き、啓発活動に取り組む必要があります。

項目	「取り組んでいる」「どちらかといえば取り組んでいる」人の割合 n=303	前回（R2） n=576	前回との差	取り組まない理由で最も多かったもの
牛乳パックやトレイ、段ボールなどはスーパーなどのリサイクルボックスに入れている	78.2%	83.2%	-5.0	手間や時間がかかるから(34%)
マイバック等を持参し、レジ袋を受け取らないようにしている	86.1%	87.9%	-1.8	効果に疑問があるから(21%)
詰め替え商品や繰り返し使用できる製品を選んで購入している	87.8%	88.6%	-0.8	特に気にかけていないから(39%)
エコマークなど環境に配慮した製品を選んで購入している	61.4%	64.0%	-2.6	特に気にかけていないから(44%)
食べ残しをしない、必要以上に食料品を買わないなど、「食品ロス」が出ないように取り組んでいる	89.4%	93.0%	-3.6	特に気にかけていないから(22%)
お菓子の空箱やチラシ、メモ用紙などの「雑がみ」は分別して、燃やせるごみには出さないようにしている	77.2%	79.0%	-1.8	手間や時間がかかるから(32%)
不用になったものは安易に廃棄せず、知人等に譲ったり、リサイクルショップなどを活用したりしている	59.7%	61.3%	-1.6	手間や時間がかかるから(37%)
資源回収活動などに積極的に参加している	70.6%	69.6%	1.0	取り組む機会がないから(37%)
プラスチックごみを正しく分別し、市の収集日に出している	78.2%	設問なし	—	取り組み方がわからないから(38%)

③地球温暖化防止・省エネルギー推進

【問５】

【地球温暖化防止・省エネルギー推進】に関して、あなたの取組状況で当てはまるもの（１～４）を〇で囲んでください。また、「取り組んでいない」「どちらかといえば取り組んでいない」を選んだ場合は、下記欄から最も近い理由を１つ選び番号で記入してください。

＜下記欄＞

・生活の便利さ快適さがなくなるから	・取り組む機会がないから
・費用がかかるから	・取り組み方がわからないから
・手間や時間がかかるから	・特に気にかけていないから
・効果に疑問があるから	・その他

- 7項目中5項目で「取り組んでいる」「どちらかと言えば取り組んでいる」と回答した人の割合が前回よりも高くなりました。「住宅に高断熱設備や省エネ設備を設置している」「自転車や公共交通機関を積極的に利用している」人の割合は前回よりも低くなりました。
- 「節電を心がけている」人の割合は90%を超え、「宅配便は日時を指定するなど再配達とならないように受け取っている」「エコドライブ」「省エネ家電の購入」に取り組んでいる人の割合も80%を超えたことから、日常生活において脱炭素型のライフスタイルが定着していることがうかがえます。
- 一方で、「住宅に高断熱化設備や省エネ設備を設置している」人の割合は前回より9ポイント以上減少しており、省エネ住宅や省エネ設備に取り組むには費用が大きな課題であると考えられます。

項目	「取り組んでいる」「どちらかといえば取り組んでいる」人の割合 n=303	前回（R2） n=576	前回との差	取り組まない理由で最も多かったもの
冷暖房の適温設定や不必要な照明の消灯し、節電を心がけている	94.1%	92.7%	1.4	生活の便利さや快適さがなくなるから(50%)
自転車や公共交通機関を積極的に利用している	28.1%	34.2%	-6.1	生活の便利さや快適さがなくなるから(30%)
アイドリングや急発進をしないなど、エコドライブを実践している	83.8%	77.4%	6.4	特に気にかけていないから(17%)
ハイブリッド車や電気自動車など、環境に配慮した自動車を使用している	38.3%	34.2%	4.1	費用がかかるから(54%)
家電を購入する際は、省エネ型など環境性能の良い商品を選んでいる	84.2%	81.9%	2.3	費用がかかるから(28%)
住宅に太陽光発電設備や蓄電池を設置している	8.9%	8.0%	0.9	費用がかかるから(56%)
住宅に高断熱化設備や省エネ設備を設置している	35.3%	44.9%	-9.6	費用がかかるから(54%)
宅配便は日時を指定するなど、再配達とならないようにして受け取っている	84.2%	設問なし	—	特に気にかけていないから(29%)
木材を購入する際には、県産材を選んでいる	26.1%	設問なし	—	取り組む機会がないから(41%)

④自然とのふれあい・自然保護

【問6】

【自然とのふれあい・自然保護】に関して、あなたの取組状況で当てはまるもの（１～４）を〇で囲んでください。また、「取り組んでいない」「どちらかといえば取り組んでいない」を選んだ場合は、下記欄から最も近い理由を１つ選び番号で記入してください。

＜下記欄＞

・生活の便利さ快適さがなくなるから	・取り組む機会がないから
・費用がかかるから	・取り組み方がわからないから
・手間や時間がかかるから	・特に気にかけていないから
・効果に疑問があるから	・その他

- 9項目中5項目で「取り組んでいる」「どちらかと言えば取り組んでいる」と回答した人の割合が前回よりも高くなりました。
- 「川釣りや自然の中でのレクリエーションなど、大野の自然とふれあい楽しんでいる」「家庭での野焼き焼却や不適切な焼却炉による焼却は行わないようにしている」人の割合は前回よりも低くなりました。
- 「ペット・園芸植物等が逸出・野生化しないように管理・飼育・栽培している」と回答した人の割合が前回から大きく上昇しており（23.3ポイント増）、市民のなかで動植物を大切にする気持ちが育まれていると考えられます。
- 「川釣りや自然の中でのレクリエーションなど、大野の自然とふれあい楽しんでいる」「文化財や伝統芸能を守る活動に参加している」人の割合が40%以下となっており、取り組む機会の創出が課題と考えられます。

項目	「取り組んでいる」「どちらかといえば取り組んでいる」人の割合 n=303	前回（R2） n=576	前回との差	取り組まない理由で最も多かったもの
川釣りや自然の中でのレクリエーションなど、大野の自然とふれあい、楽しんでいる	37.6%	44.0%	-6.4	取り組む機会がないから(63%)
川や山を訪れた際は、不要な採取や餌付け、生き物のすみかを荒らす行為はしないように注意している	82.5%	81.6%	0.9	取り組む機会がないから(60%)
よく晴れた夜は、星空を見上げている	76.9%	75.5%	1.4	特に気にかけていないから(48%)
農地や所有林の保全に心がけている	56.1%	52.3%	3.8	取り組む機会がないから(49%)
家庭での野外焼却や不適切な焼却炉による焼却は行わないようにしている	85.8%	86.9%	-1.1	取り組む機会がないから(23%)
ペット・園芸植物等が逸出・野生化しないように管理・飼育・栽培をしている	72.6%	49.3%	23.3	取り組む機会がないから(52%)
文化財や伝統芸能を守る活動に参加している	29.0%	28.4%	0.6	取り組む機会がないから(55%)
地元の農林水産物を購入し、地産地消に取り組んでいる	71.6%	設問なし	—	取り組む機会がないから(25%)

⑤公害発生の防止・環境学習

【問７】

【公害発生の防止・環境学習】に関して、あなたの取組状況で当てはまるもの（１～４）を〇で囲んでください。また、「取り組んでいない」「どちらかといえば取り組んでいない」を選んだ場合は、下記欄から最も近い理由を１つ選び番号で記入してください。

＜下記欄＞

・生活の便利さ快適さがなくなるから	・取り組む機会がないから
・費用がかかるから	・取り組み方がわからないから
・手間や時間がかかるから	・特に気にかけていないから
・効果に疑問があるから	・その他

- 「生活雑排水を出さない」「騒音を出さない」「不法投棄をしない」という人の割合が80～90%程度と高くなっており、日常生活における基本的な環境マナーは定着しているといえます。
- 一方で、「環境に関する学習会等への参加」「環境に関する取り組みの情報収集」については、27～40%程度と低くなりました。
- 環境に関する学習会等の質の向上や情報発信方法の改善などより、市民が主体的に環境問題に関心が持つことができるような取組が必要です。

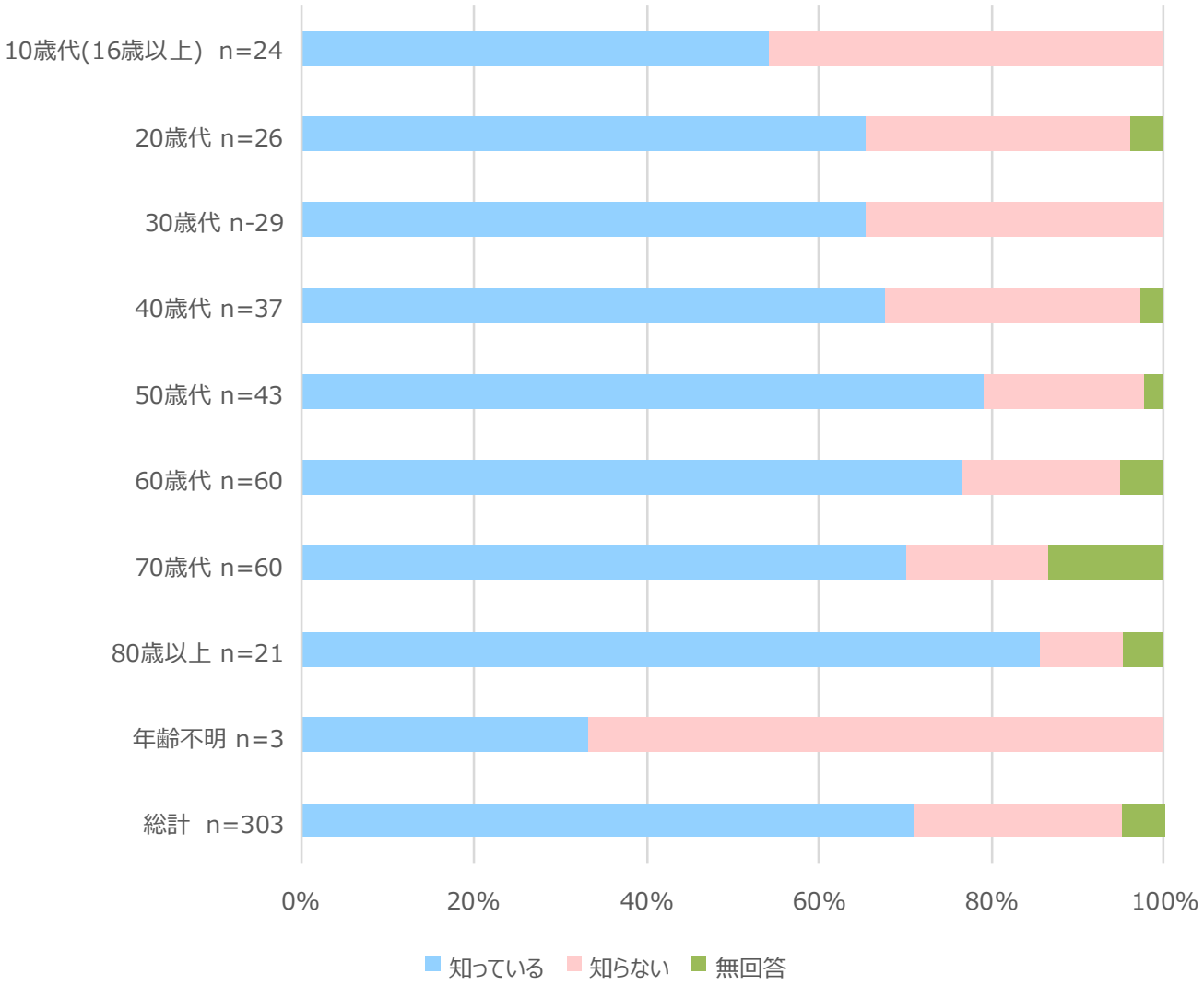
項目	「取り組んでいる」「どちらかといえば取り組んでいる」人の割合 n=303	前回（R2） n=576	前回との差	取り組まない理由で最も多かったもの
器の油汚れをふき取るなど、生活雑排水対策に取り組んでいる	80.2%	設問なし	—	手間や時間がかかるから(43%)
近隣の住宅に配慮し、迷惑をかけるような音（騒音）を出さないようにしている	90.1%	設問なし	—	特に気にかけていないから(40%)
空き缶やごみのポイ捨て（不法投棄）を行わないようにしている	94.4%	設問なし	—	取り組み方がわからないから(33%)
環境に関する学習会やイベントに積極的に参加している	27.7%	設問なし	—	取り組む機会がないから(47%)
環境に関する取り組みの情報収集を積極的に行っている	39.6%	41.0%	-1.4	取り組む機会がないから(37%)

(５)地下水位の計測に関する認知度

【問８－①】

毎日、市民が地下水位を市内16ヶ所で計測し、掲示板でお知らせしていることを知っていますか。

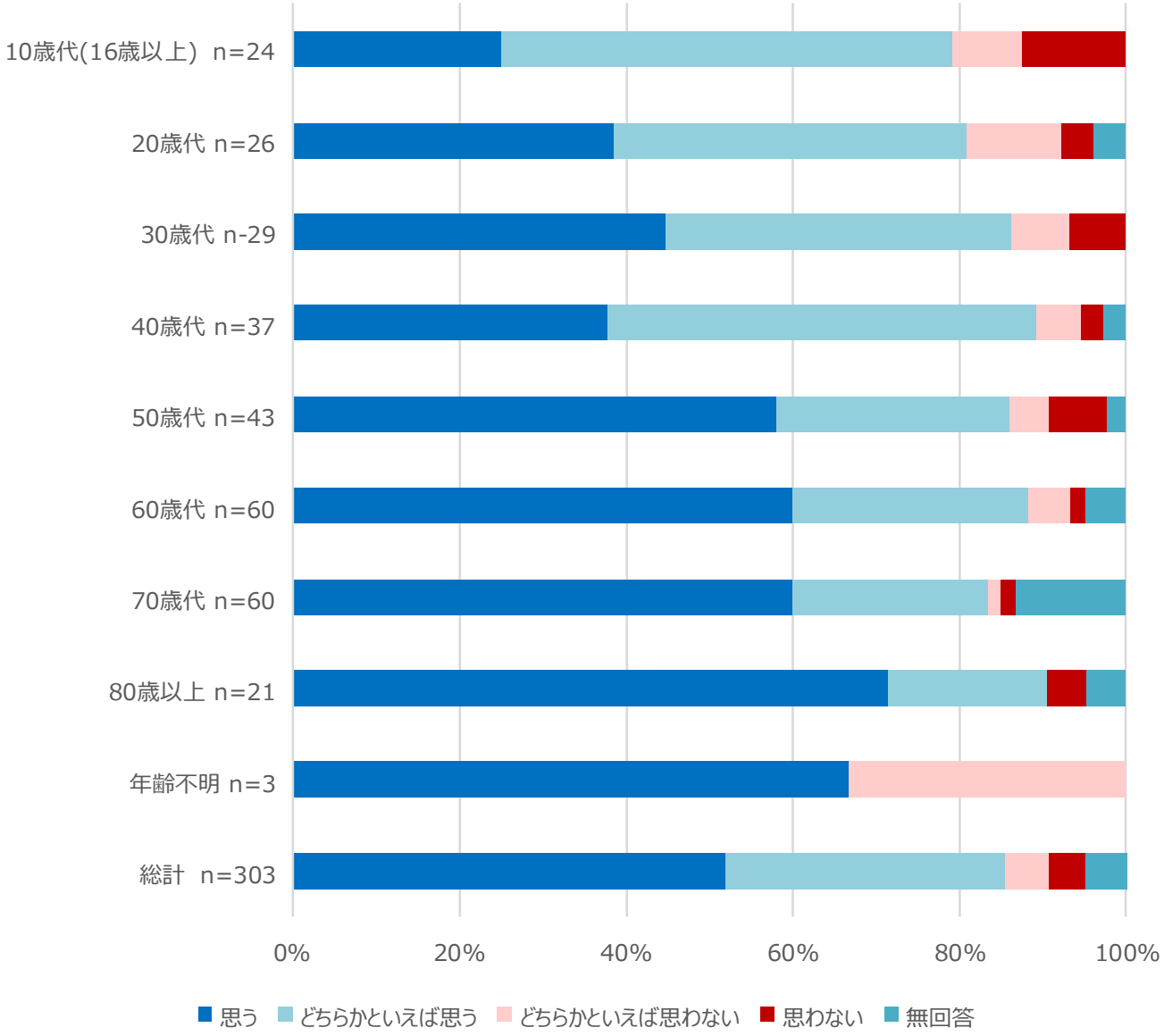
- すべての年代で「知っている人」の割合が50%を超えました。
- 総じてみると、年代が高くなるにつれ、知っている人の割合が高くなる傾向が見てとれます。
- 10歳代のみが60%を下回っていることから、学校教育や社会教育など、あらゆる機会を活用し、地下水保全や健全な水循環の重要性についての理解を高めるための取組が必要です。



【問８－②】

掲示板で地下水位をお知らせすることは、市民にとって大切だと思いますか。

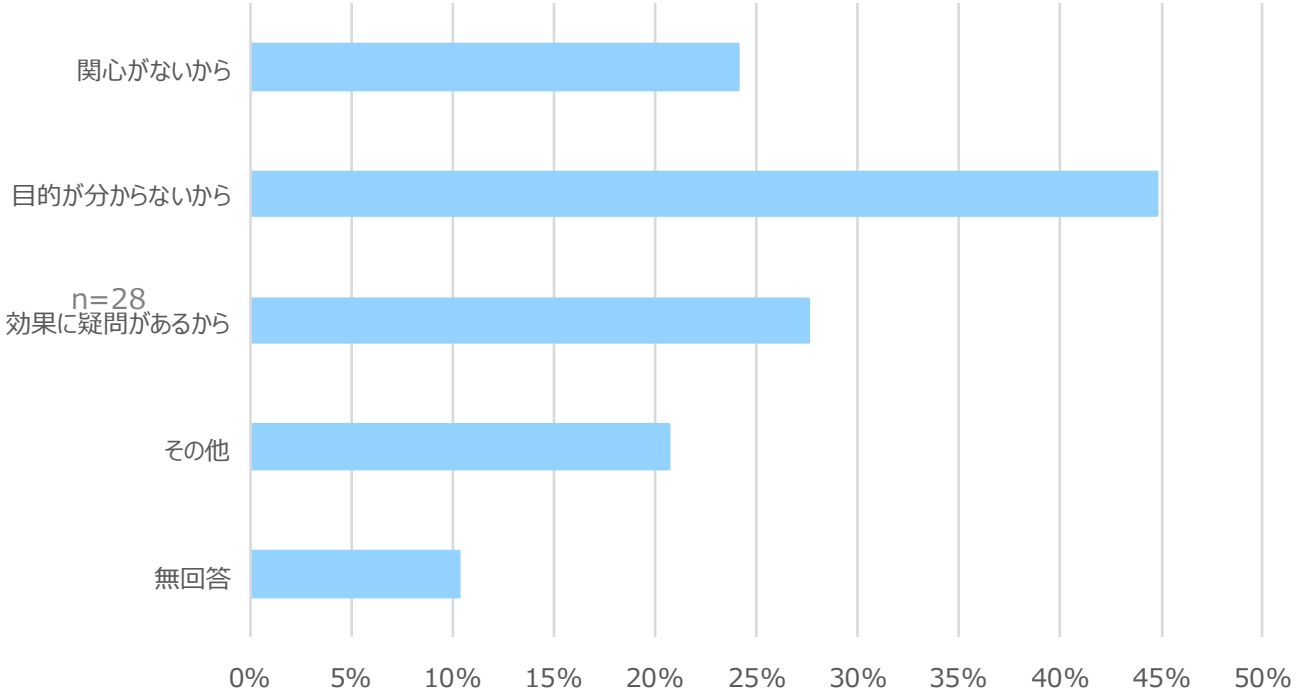
- 10歳代をのぞく年代で「思う」「どちらかといえば思う」人の割合が80％を超えました。10歳代についても80％にきわめて近い割合となりました。この水準を維持して節水意識が定着するよう、引き続き、地下水情報を発信していく必要があります。



【問８－③】

②で「どちらかと言えば思わない」「思わない」を選んだ場合、その理由を○で囲んでください。（複数回答可）

- 「目的がわかない」を選んだ人が45%程度となりました。昭和50年代に発生した大規模な井戸枯れを背景に、節水意識を啓発するために地下水情報の発信を行っていることを知らない人が一定数いることがうかがえます。
- また、その他の理由で「HPでお知らせすれば良いと思うため」という人もいたことから、毎日、市ホームページで地下水情報を発信していることが十分に知れ渡っていない可能性があります。



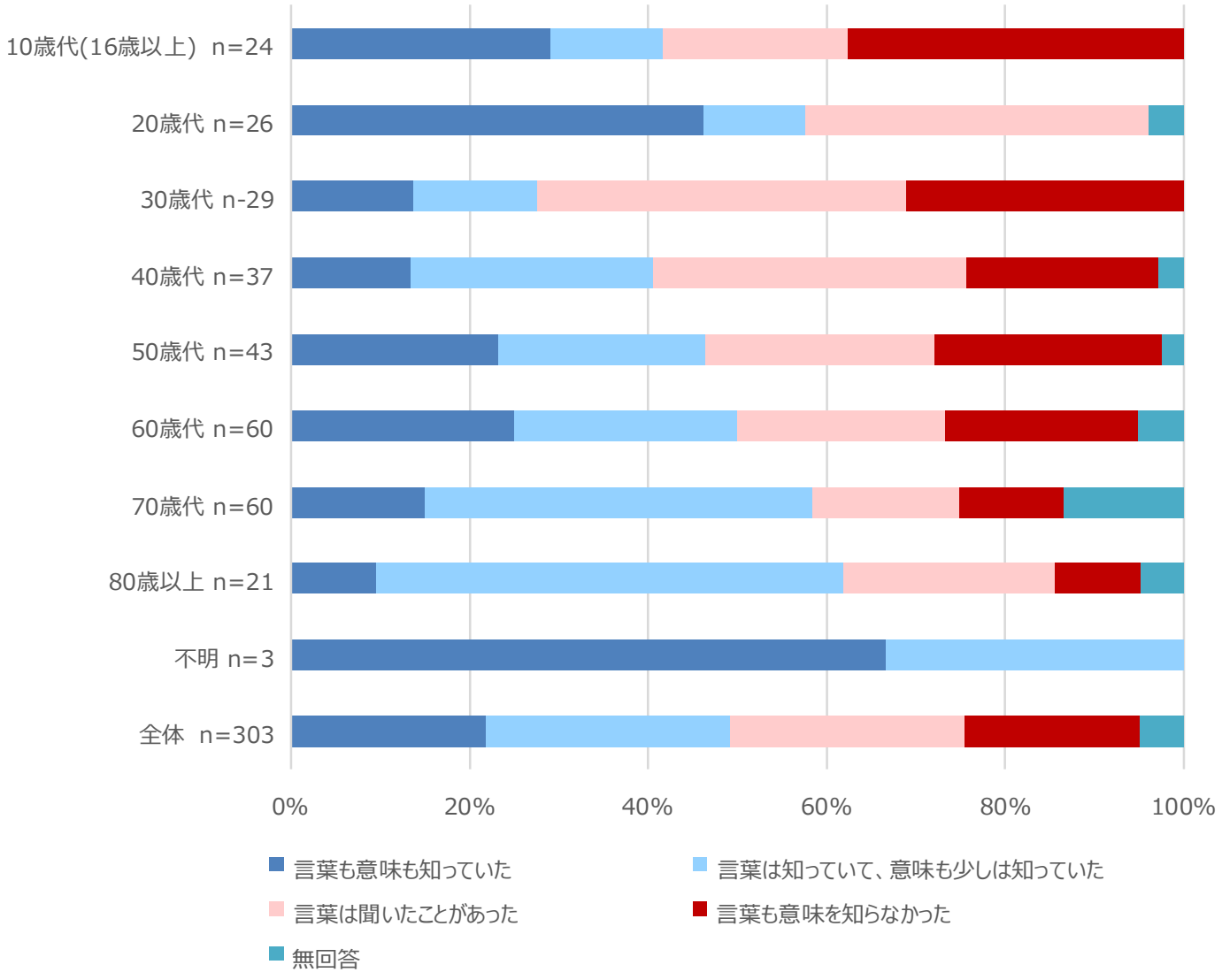
【その他の理由】

- 地下水を使用していないため（２人）
- HPでお知らせすれば良いと思うため（２人）
- 近所に掲示板がなく身近ではないため
- その場所でしか知ることができないため
- 我が家は地下水を使用していないため

(6)生物多様性に関する認知度

【問９】
地球上には何百万種類もの生物が存在し、これらの生物が、例えば、食べる・食べられるなど、お互いを利用し、支え合うといった繋がりの中で生きていることを「生物多様性」と呼びます。
あなたは、この「生物多様性」という言葉と意味を知っていましたか。

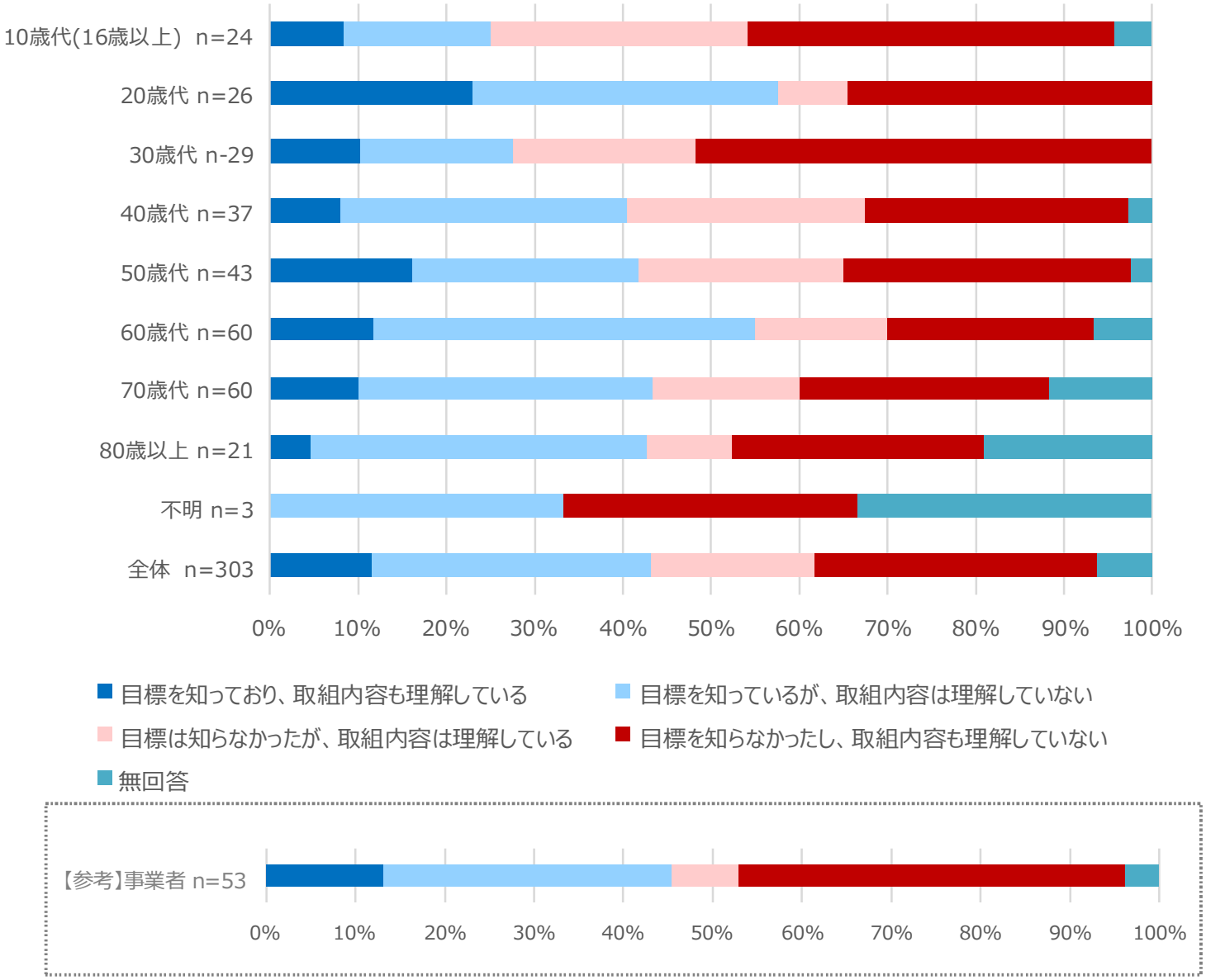
- 全体で生物多様性という言葉を知っている人の割合が50%を下回りました。
- 20歳代の生物多様性に対する認知度は全体よりも高くなっているものの、総じてみると、年代が低いほど認知度は低く、年代が上がるにつれて認知度が高まる傾向があります。
- 50歳代以上では半数以上が認知しているものの、全体として見ると、生物多様性という言葉自体の認知度が十分とはいえません。
- とりわけ、認知度50%を下回っている、40歳代以下（若年層や子育て世代）をターゲットとして、生物多様性という言葉の意味や重要性を理解してもらうための取組（教育・啓発活動など）が求められます。



(7)カーボンニュートラルに関する認知度

【問10】
大野市は2035年までに温室効果ガスの排出量を全体としてゼロにするという「カーボンニュートラル」を目標に掲げ、その達成に向けて取り組んでいることを知っていますか。

- 市が掲げるカーボンニュートラルの目標を知っている人の割合は、50%を下回りました。
- 年代ごとに見るとばらつきがあるものの、10歳代と30歳代の割合が低くなっています。特に、若年層と子育て世代をターゲットに、カーボンニュートラルに関する効果的な情報発信と啓発活動を行うことが重要と考えられます。
- 全体における目標を知っている人の割合を事業者と比較すると、ほぼ同じ傾向となっています。



(８)将来に残したい環境や場所、風景

【問11】
あなたが、大野市の誇りや象徴として、特に将来に残していきたいと思う環境や場所、風景などを
お聞きします。①～⑨の中で特に残したいと思うものを３つ選んで番号を記入してください。

- 「御清水をはじめとする湧水地・名水」が73.6%と、前回に続き最も高くなりました。市内の水環境を誇りに思い、水資源を将来に残したいと考える人が多いことがうかがえます。
- 「星空保護区に選ばれた星空」が2位（前回３位）に浮上したことは、令和５年度に南六呂師エリアの星空が「星空保護区」に認定されたことで、市民の認知度や保護意識の高まったことが要因と考えられます。

項目	今回（R7）n=303	前回（R2）n=576	前回との差
御清水をはじめとする湧水地・名水（地下水）	73.6%	78.3%	-4.7
日本百名山荒島岳や山々の連なり	33.7%	28.5%	5.2
九頭竜湖の風景	12.9%	12.7%	0.2
イトヨが生息する水環境	33.3%	24.7%	8.6
六呂師高原	19.1%	21.7%	-2.6
星空保護区に選ばれた星空	51.8%	40.1%	11.7
田園風景	18.8%	20.5%	-1.7
歴史的風情の残る町割や町並み	39.3%	42.0%	-2.7
その他	3.3%	2.3%	1.0

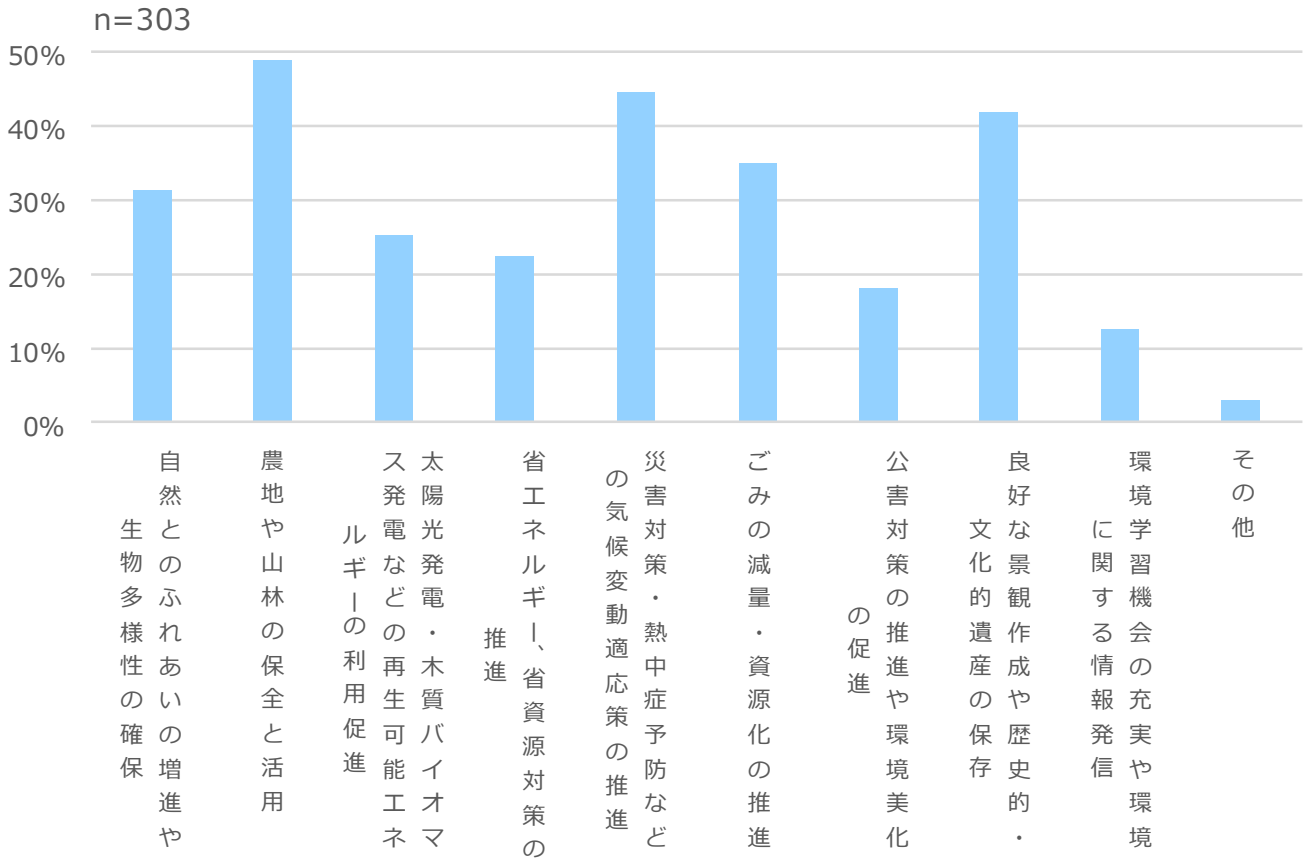
【その他】

- お城とお堀、朝市、お寺
- お城と活発な城下町
- 越前大野城周辺
- 亀山
- 刈込池の風景
- 越美北線と九頭竜湖のコラボ風景
- OSORAのような子供たちの遊び場所、自然と触れ合える場所

(９)今後の市の環境保全に関する施策

【問12】
あなたが、今後の市の環境保全に関する施策で重点的に進めるべきだと思う施策を３つ選んで番号を記入してください。

- 「農地・山林の保全」が最も高い割合となりました。農地や森林は、自然とふれあう活動の創出や野生動植物の保全、森林吸収源対策、農村景観の保全、水源の涵養、土砂災害防止など、多面的な役割を担っていることから、高齢化や担い手不足に対応し、適切な維持管理を継続するための取組が必要です。
- 次いで、「災害対策・熱中症予防などの気候変動適応策」が高い割合となりました。熱中症や農作物被害、災害など、気候変動が健康や産業、気象などに与える影響について情報収集を行い、効果的に情報提供することが必要です。
- 「公害対策」が下位に位置しており、日常的な公害問題の関わりが少ない結果、関心が薄れている可能性があります。
- 「環境学習の充実」が最下位となりました。市民は環境問題に関する知識・技術の習得よりも、日常生活への悪影響を回避する施策を求めている傾向が見てとれます。

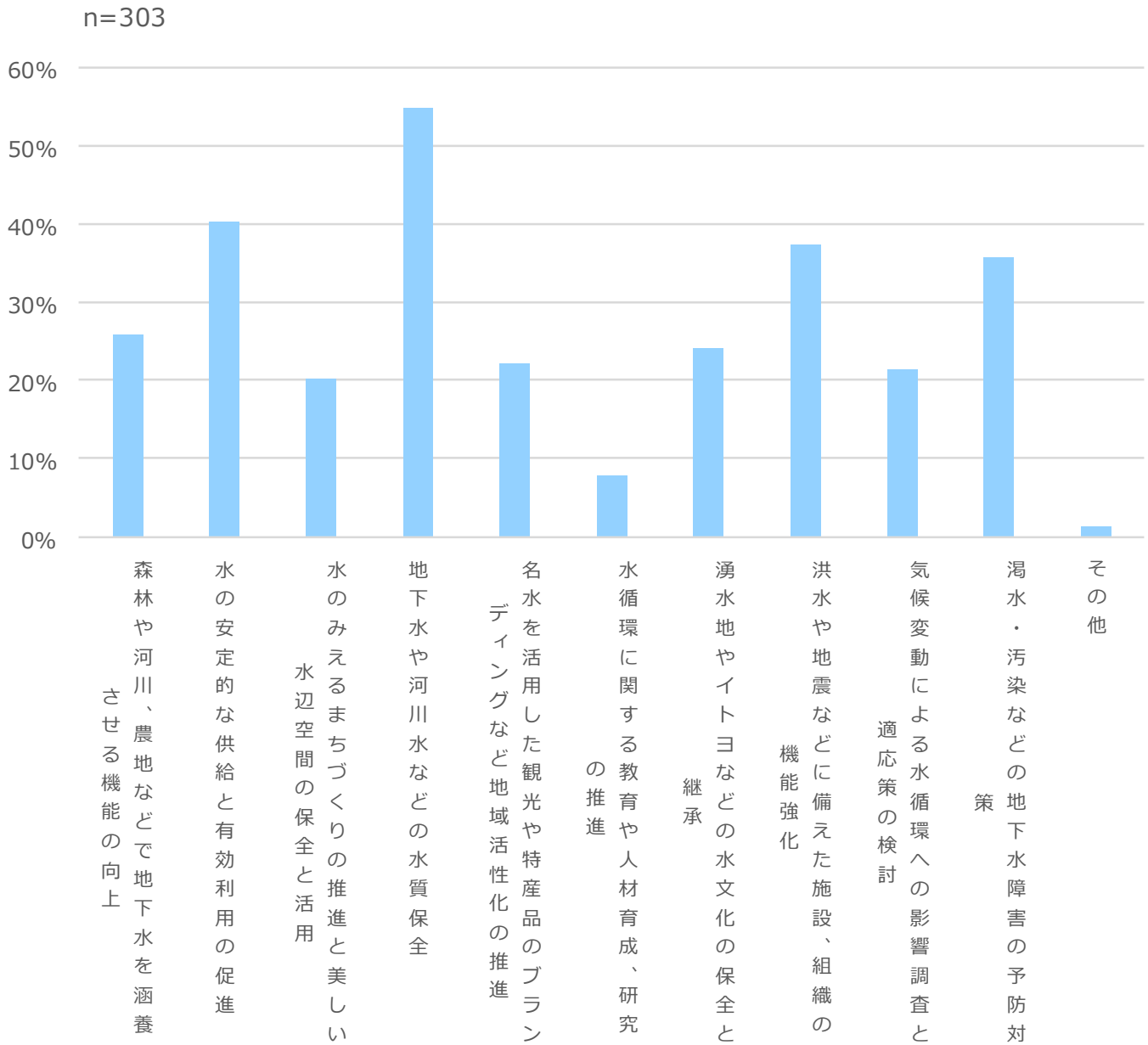


【その他】
・市民への配布チラシの削減　・外国人に対する環境教育　・空家対策　・融雪対策

(10)今後の市の水循環に関する施策

【問12】
あなたが、今後の市の水循環に関する施策で重点的に進めるべきだと思う施策を３つ選んで番号を記入してください。

- 「地下水や河川などの水質保全」が最も高い割合となりました。地下水や河川の水質悪化は、市民の健康被害に直結する可能性があるため、引き続き、定期的に地下水や河川の水質検査を実施していく必要があります。



【その他】

・側溝があるも水が流れていない事への対策　・下水道使用料の引き下げ

(11)自由意見

【問17】
大野市の環境保全・水循環への取り組みに対し、ご意見やアイデアがありましたらご自由にお書きください。

以下に自由意見を示します。（原文ではなく、要約しています）

No.	内容
1	日本一清潔な河川や用水を守る施策を全面に打ち出した条例と、それに伴う関連方策を徹底することが、市が目指すべき課題である。
2	川に大型家具や発泡スチロールを捨てる人がおり、水質汚染への不安がある。空き家による害獣の増加により被害が広がっているため、この問題を最優先で解決すべきである。空き家が放置され廃墟化し、倒壊時には隣接家庭への被害リスクが高まっている。
3～5	カラスのフン対策を講じるべきである。特に電柱や電線が集中する観光地の歩道がフンで汚れており、まちの清潔さ、景観、美しい街並みを守るために必要不可欠である。(同様の意見が他２件)
6	学校で自然環境を体験しながら学ぶ取り組みを進めるべきである。
7	行政として環境保全や水環境への対策を見える化し、子どもから大人まで幅広い世代に環境教育を提供することが望ましい。
8	日中や夜間の交通手段が不便である。
9	タクシーの利用について、時間帯の問題があるが、60歳以上の方がライドシェアや観光ガイドを活用できる環境を整えることで解決できる。空き家を民泊として活用することも併せて進めるべきである。
10	除雪機があるのに使用せずに、悪天候で電車が止まることが多い状況を改善してほしい。土日に移動できなくなるため、市民生活が不便になる。
11	大野市の指定ゴミ袋は大型サイズしかなく、ゴミが少ない場合に効率が悪くなる。小型サイズも導入し、価格を異なる設定にすることで、ゴミ削減の促進に繋がるのではないかと考える。金沢市などの事例を参考に検討してほしい。
12	高い電子公告塔は光害の原因となり、景観や夜空への影響が懸念される。特に中部縦貫自動車道沿いで目立つため改善を望む。
13	ゴミの分別方法について、明確に周知することが重要である。
14	ごみの分別が進んでいる長野県松本市の取り組みを参考に、高齢者を含め市民が環境活動への関心を持てる仕組みを作るべきである。
15	道路や河川でペットボトルや空き缶、たばこの吸い殻が見受けられるため、ごみ回収活動を市民が行える仕組みを作り、経済的支援を提供すべきである。
16	学校に卒業生の体操服や制服を回収する仕組みを導入すれば、リサイクルの取り組みとして有用である。子供が複数いる家庭においてはこうした品物を利用したいと思う人も多いため、そのような制度を検討すべきである。
17～19	市の取り組みをSNSやテレビ、展示などを使って発信し、多くの人に認知させるべきである。LINEだけでなく、インスタグラムなど目につきやすい媒体で共有することが望ましい。(同様の意見が他２件)
20～21	清掃活動を促進するため、若い世代の中高生に協力を依頼し、参加者の年代層を広げる方策が必要である。高齢者だけでは限界があるため、地区協力が必須である。(同様の意見が他1件)
22	町中の側溝清掃を依頼したい。特に泥で埋まり、ふたがある場所は清掃が難しいため、行政の取り組みに期待する。
23	大野市環境基本計画に関し、生物多様性保全と外来生物防除の関連性を合理的に解説することで、市民の理解を深める必要がある。

No.	内容
24	元町会館の植木や屋根が荒れており、景観が損なわれている。無造作な状態を改善し、美しい街並みを保ってほしい。
25	環境活動の効果を見える化し、市民が取り組みの成果を実感できる仕組みを導入すべきである。数値化や推移の公開によって市民の関心が高まり、活動が進むはずである。
26	豊かな自然環境や水環境を活かし、市民が大野市に魅力を感じる仕組みを構築するべきである。他市を模倣するのではなく、大野市独自の施策で実現してほしい。中部縦貫自動車道が便利になる一方で、夜間の明るさが星空を損なっている。また農地における減農薬や有機栽培促進、冬水田んぼ施策などを進めるべきである。
27	自然環境保護の優先順位を高め、一度破壊された場合に復元が困難であることから、未然防止と現状維持に力を入れてほしい。
28	六呂師高原のより有効な活用策を検討すべきである。
29	森林の減少が進み、まちなかに植物の存在が少ないため、適切な植栽や環境保全が必要である。
30	太陽光発電廃棄物の問題を考慮し、普及促進より環境保全に基づく森林増加や関連の補助金制度を取り入れる方向性が優先されるべきである。
31	R158号線の土砂崩れ対策として山林の保水能力を高める施策が必要である。市内の自然資源を活かし、林業振興への予算を増やして水資源の確保につなげるべきである。
32～33	農地保全に必要な次世代の後継者育成を進めるための環境教育を展開するべきである。中山間地の現状を改善するには早急な対応が求められる。(同様の意見が他1件)
34	生活に不可欠な水の利用について、各家庭が無駄遣いせず、大切にするための啓発活動が望ましい。
35	冬場の「水田んぼ」の利用は生物保護の観点で良い取り組みである。
36	上水道整備を要望する。
37	市民にできる環境保全の対策を広報誌などで発信してほしい。身近な活動を促進していくべきである。
38	湧水地の清掃を継続し、地域管理を強化することを提案する。また冬期には用水量を増やし融雪効果を高める施策が望ましい。
39	原因が不明な水道水の濁りが昨年２回発生したため、原因究明と対策を講じてほしい。
40	工場から油が流れる問題により、用水路の汚染が進みサワガニが全滅している。汚染問題の早急な対応が必要である。
41	地下水源を守るため、下水道整備と維持管理を適切に行うべきである。水用途を最適化し、工場は河川水、飲料は地下水源などの改善を提案する。深井戸の増設も検討するべきである。
42～43	地下水検査を定期的に実施し、結果を公表することが望ましい。(同様の意見が他1件)
44	水に関する基盤整備として、中心市街地の住宅を優先するかたちで下水道普及率を向上させてほしい。
45	地下水位の情報をWebで公開することを提案する。
46	上庄地区への水道メーター設置の合理性について、他地域との比較で説明を求める。
47	浄化槽点検費用の高さや頻度について、改善を図るべきである。点検業者が一社独占状態のため、選択肢を増やし市民の負担を軽減すべきである。
48	雪を川に捨て道路が水で溢れる地区があるため、市の適切な対応を望む。
49	高齢者が安心して生活できる環境を目指し、特に雪対策として屋根融雪設備の補助を検討するべきである。
50	側溝の水が少なく冬は雪のやり場がなくなり困る。
51	各地区に貯水池を設置することで災害時や排雪場所として有効活用できる仕組みを生むべきである。
52	節水を心がけている市民が増える中、用水路整備が不十分であり川に水が流れない問題の解決を、国・県と連携して進めるべきである。
53	冬場に地下水で融雪している家庭に対して適切な指導を行うことが望ましい。

事業者向けアンケートの調査結果

(1)属性

①業種（問12）

項目	今回（R7）		前回（R2）	
	件数	割合	件数	割合
農業	4	7.5%	2	1.7%
建設業	19	35.8%	24	20.5%
製造業	7	13.2%	15	12.8%
電気･ガス･熱供給･水道事業	1	1.9%	0	0.0%
運輸･通信業	0	0.0%	3	2.6%
卸売･小売業･飲食店	5	9.4%	27	23.1%
金融･保険業	1	1.9%	2	1.7%
不動産業	0	0.0%	2	1.7%
サービス業	9	17.0%	35	29.9%
その他	6	11.3%	6	5.1%
無回答	1	1.9%	1	0.9%
合計	53	100.0%	117	100.0%

【その他の業種】林業、自動車整備業、発電事業、複数業種の組み合わせ（3件）

②従業員数（問１３）

項目	今回（R7）		前回（R2）	
	件数	割合	件数	割合
1～10名未満	32	60.4%	93	79.5%
10～30名未満	16	30.2%	17	14.5%
30～50名未満	3	5.7%	0	0.0%
50～100名未満	1	1.9%	4	3.4%
100～200名未満	0	0.0%	1	0.9%
200名以上	0	0.0%	1	0.9%
無回答	1	1.9%	1	0.9%
合計	53	100.0%	117	100.0%

(２)環境保全に対する考え方

【問1】
貴事業所は、経済活動と環境保全の関係について、どのようにお考えですか。次の各項目の中から、最もあてはまる番号を１つお書き下さい。

- 前回の結果と比較すると、「社会的な立場を考え、環境保全に最善を尽くしている」事業者の割合が14.9ポイント上昇した一方で、「経済活動継続のために環境保全に配慮する」事業者の割合は、12.4ポイント低下しました。「配慮」から「最善を尽くす」に移行し、環境保全に対する意識の高まっていることが考えられます。
- 「どちらかというと経済活動を優先させる」「経済活動を優先させる」事業者の割合は、合計で1.6ポイント低くなりました。
- 環境保全に対する意識の高まりが表れた一方で、経済活動を優先させる傾向の事業者も一定程度存在するといえ、さらなる環境保全に対する意識啓発が必要です。

項目	今回（R7） n=53	前回（R2） n=117	前回との差
企業の社会的な立場を考え、環境保全に最善を尽くしている	22.6%	7.7%	14.9
経済活動を継続していくためには、環境保全にも一定の配慮をする	58.5%	70.9%	-12.4
環境保全も大切だと思うが、どちらかというと経済活動を優先させる	13.2%	16.2%	-3.0
事業所存続のために、経済活動を優先させる	5.7%	4.3%	1.4
環境保全に関わる新たな技術開発などを今後の経営に活かしたい	0.0%	0.9%	-0.9
その他	0.0%	0.0%	0.0
無回答	0.0%	0.0%	0.0

（３）環境対策に取り組んでいる理由

【問２】
貴事業所が、環境対策に取り組まれている理由は何ですか。次の各項目の中から、主なものを選んで、番号を記入してください。（３つ以内）

- 「環境対策に取り組んでいる理由」を問う設問について、「企業の社会的責任であると考えるから」と回答した事業者の割合が64.2%と、前回同様、最も高くなり、前回よりも2.7ポイント上昇しました。地球規模で対応しなければならない環境問題を背景に、消費者の環境配慮志向の高まり、企業が環境への取組を積極的に行うことで、信頼や評価を得られるという認識も広まっていることがうかがえます。
- 「取引先から求められているから」「省エネや資源リサイクルはコスト削減につながるから」と回答した事業者の割合が前回よりも上昇しました。
- 「法令遵守のため」「企業として取り組まざるを得ないから」「新たな商品開発や顧客獲得につながるから」と回答した事業者の割合が低下しました。
- 社会的責任としての意義を理解してもらうだけでなく、コスト削減や事業収益の面でもメリットを見出してもらえるよう、脱炭素経営や循環型の事業活動などを促進するための取組が必要です。

項目	今回（R7） n=53	前回（R2） n=117	前回との差
法令を遵守するために必要だから	47.2%	53.8%	-6.6
取引先から環境対策を求められているから	17.0%	12.0%	5.0
社会や消費者の環境意識が高いため、企業として取り組まざるを得ないから	17.0%	24.8%	-7.8
企業の社会的責任であると考えるから	64.2%	61.5%	2.7
事業所や製品、商品などのイメージアップにつながるから	15.1%	17.1%	-2.0
省エネルギーや資源のリサイクルは結果的にコスト削減につながるから	39.6%	30.8%	8.8
新たな商品開発や顧客獲得につながるから	0.0%	6.8%	-6.8
特に環境対策には取り組んでいない	15.1%	11.1%	4.0
その他	0.0%	4.3%	-4.3

(４)企業活動が周囲に与える環境負荷

【問３】
貴事業所の業態における企業活動が周囲に与えている環境負荷があるとしたら何があると思いますか。
影響があると思われるものを選んで番号をお書き下さい。（３つ以内）

- 前回の結果と比較すると、「水質汚濁」「気候変動」と回答した事業者の割合がともに10ポイント程度低下しました。
- 前回に比べ「土壌汚染」「産業廃棄物」と回答した事業者の割合が6~9ポイントの間で高くなりました。
- 周囲に与える影響で高いものは、「産業廃棄物」が37.7%、「騒音」が30.2%、「事業系一般廃棄物」が20.8%と、ごみに関する割合が高くなりました。
- 今回が初めての質問となった「地下水位への影響」と回答した事業者は、9.4%となりました。

項目	今回（R7） n=53	前回（R2） n=117	前回との差
大気汚染	11.3%	9.4%	1.9
水質汚濁	13.2%	23.1%	-9.9
土壌汚染	9.4%	3.4%	6.0
騒音	30.2%	31.6%	-1.4
振動	5.7%	6.8%	-1.1
悪臭	3.8%	3.4%	0.4
有害化学物質	0.0%	3.4%	-3.4
生態系への影響	7.5%	6.0%	1.5
気候変動	3.8%	15.4%	-11.6
事業系一般廃棄物	20.8%	22.2%	-1.4
産業廃棄物	37.7%	29.1%	8.6
地下水位への影響	9.4%	設問なし	—
特に環境負荷はない	24.5%	27.4%	-2.9

(５)事業所の取組状況

①公害防止対策

【問４】

【公害防止対策】に関して、貴事業所の取組状況で当てはまるもの（１～４）を○で囲んでください。

また、３・４のいずれかを選んだ場合は、下記欄 から最も近い理由１つを選び番号で記入してください。

＜下記欄＞

・利便さ・快適さが損なわれる	・必要だと思わない・効果に疑問がある
・従業員の理解・協力が得られない	・取り組む機会がない・該当しない
・費用がかかる	・情報や知識が足りない
・手間や時間がかかる	・特に気にかけていない
・利益につながらない	・その他

- ６項目中５項目で、「取り組んでいる」「どちらかといえば取り組んでいる」と回答した人の割合が前回を上回り、下回った1項目も前回とほぼ同じ割合でした。法律や規制による抑制や社会的責任感の高まりなどが要因と考えられます。
- 「取り組んでいない」と回答した事業者のうち、取り組まない理由として「機会がない」「該当しない」の割合が高く、事業者においては、必要な公害防止対策に取り組んでいることがうかがえます。

n=53　　n=117

項目	「取り組んでいる」「どちらかといえば取り組んでいる」人の割合	前回（R2）	前回との差	取り組まない理由で最も多かったもの
野外焼却や不適切な焼却炉による焼却は行わないようにしている	86.8%	77.8%	9.0	取り組む機会がない・該当しない(33%)
大気汚染対策として、ばい煙や粉じん等の集じん設備を設置している	26.4%	26.5%	-0.1	取り組む機会がない・該当しない(78%)
水質汚濁防止装置等を設置している	34.0%	29.9%	4.1	取り組む機会がない・該当しない(68%)
悪臭や振動、騒音を防ぐ装置を設置するなどの防止対策に取り組んでいる	47.2%	42.8%	4.4	取り組む機会がない・該当しない(62%)
PCB・アスベスト等有害化学物質を適正に管理・処理している	52.8%	41.0%	11.8	取り組む機会がない・該当しない(79%)
化学物質や化学肥料を適正に管理保管し、使用量を低減するように努めている	41.5%	35.0%	6.5	取り組む機会がない・該当しない(86%)

②地球温暖化防止・省エネルギーの推進

【問5】

【地球温暖化防止・省エネルギーの推進】に関して、貴事業所の取組状況で当てはまるもの（１～４）を○で囲んでください。また、３・４のいずれかを選んだ場合は、下記欄 から最も近い理由１つを選び番号で記入してください。

＜下記欄＞

・利便さ・快適さが損なわれる	・必要だと思わない・効果に疑問がある
・従業員の理解・協力が得られない	・取り組む機会がない・該当しない
・費用がかかる	・情報や知識が足りない
・手間や時間がかかる	・特に気にかけていない
・利益につながらない	・その他

- 「節電」「エコドライブ」に取り組む事業者の割合は90%程度と高い一方で、「公共交通機関利用」「ノーマイカー」に取り組む事業者の割合は6～20%程度と低くなりました。
- 「太陽光発電」「余剰エネルギーの利用」「EV車等の導入」など、設備投資が必要な取組についての割合は、5～26%程度と低くなりました。国や県の事業者向けの補助制度などの活用を促す必要があります。
- 今回の新規設問の「CO2削減目標等の管理」に取り組む事業者の割合は、26.4%と低くなりました。事業者とってのメリットや目標を明確化するため、排出量の見える化を促すことが必要と考えられます。

項目	「取り組んでいる」「どちらかといえば取り組んでいる」人の割合 n=53	前回（R2） n=117	前回との差	取り組まない理由で最も多かったもの
冷暖房の適温設定や不必要な照明の消灯など、節電を心がけている	92.5%	90.6%	1.9	特に気にかけていない(67%)
アイドリングや急発進をしないなど、エコドライブを実践している	86.8%	87.1%	-0.3	利便さ・快適さが損なわれる(33%)
自転車や公共交通機関を積極的に利用している	18.9%	35.0%	-16.1	取り組む機会がない・該当しない(38%)
ノーマイカー運動（従業員のマイカー出退勤を控える運動）に取り組んでいる	5.7%	5.4%	0.3	利便さ・快適さが損なわれる(28%)
太陽光発電など、再生可能エネルギーを導入・活用している	13.2%	4.3%	8.9	取り組む機会がない・該当しない(43%)
廃熱などの余剰エネルギーを利用している	5.7%	4.3%	1.4	取り組む機会がない・該当しない(58%)
電化製品や機器は省資源・省エネルギー型のものを導入している	66.0%	63.2%	2.8	費用がかかる(56%)
ハイブリットカーや電気自動車などの電動車を導入している	26.4%	25.6%	0.8	費用がかかる(50%)
エネルギー使用料の把握やCO2削減目標等の管理をしている	26.4%	設問なし	—	取り組む機会がない・該当しない(31%)

③ごみ減量・循環型社会構築

【問６】

【ごみ減量・循環型社会構築】に関して、貴事業所の取組状況で当てはまるもの（１～４）を○で囲んでください。また、３・４のいずれかを選んだ場合は、下記欄 から最も近い理由１つを選び番号で記入してください。

＜下記欄＞

・利便さ・快適さが損なわれる	・必要だと思わない・効果に疑問がある
・従業員の理解・協力が得られない	・取り組む機会がない・該当しない
・費用がかかる	・情報や知識が足りない
・手間や時間がかかる	・特に気にかけていない
・利益につながらない	・その他

- 前回と比較すると、10項目中６項目で前回より高くなっており、ごみ減量意識の高まりが見られます。
- 一方で「商品梱包の簡素化」「地域の資源回収への参加」が前回より10ポイント程度低下しました。
- 取り組まない理由として「取り組む機会がない」「該当しない」の割合が高くなっています。廃棄物の適正管理や排出は、事業者に定着していることがうかがえます。

n=53　　n=117

項目	「取り組んでいる」「どちらかといえば取り組んでいる」人の割合	前回（R2）	前回との差	取り組まない理由で最も多かったもの
事業系一般廃棄物及び産業廃棄物をそれぞれの分類ごとに把握し、適正に処理している	98.1%	90.6%	7.5	手間や時間がかかる(100%)
両面印刷や使用済みの紙の裏面使用、ペーパーレス化、再生紙の使用など紙製品の使用削減に取り組んでいる	94.3%	81.2%	13.1	手間や時間がかかる(33%)
リサイクルや再利用などにより廃棄物の減量化に取り組んでいる	88.7%	81.2%	7.5	特に気にかけていない(33%)
廃棄物の分類や排出量を記録するなど、管理体制を確立している	62.3%	52.2%	10.1	取り組む機会がない・該当しない(32%)
環境に配慮した商品の販売や製品作りに取り組んでいる	56.6%	41.0%	15.6	取り組む機会がない・該当しない(68%)
リサイクル製品等環境に配慮した原材料や製品を使用している	58.5%	58.1%	0.4	取り組む機会がない・該当しない(59%)
商品梱包の簡素化に取り組んでいる	41.5%	52.2%	-10.7	取り組む機会がない・該当しない(87%)
レジ袋の有料化やマイバッグ持参促進に取り組んでいる	60.4%	61.5%	-1.1	取り組む機会がない・該当しない(71%)
地域の資源回収に参加している	67.9%	77.8%	-9.9	取り組む機会がない・該当しない(63%)
商品やサービスを購入する際、グリーン購入を実践している	67.9%	設問なし	—	特に気にかけていない(40%)

④地下水・湧水・河川の保全

【問７】

【地下水・湧水・河川の保全】に関して、貴事業所の取組状況で当てはまるもの（１～４）を○で囲んでください。また、３・４のいずれかを選んだ場合は、下記欄 から最も近い理由１つを選び番号で記入してください。

＜下記欄＞

・利便さ・快適さが損なわれる	・必要だと思わない・効果に疑問がある
・従業員の理解・協力が得られない	・取り組む機会がない・該当しない
・費用がかかる	・情報や知識が足りない
・手間や時間がかかる	・特に気にかけていない
・利益につながらない	・その他

- 前回と比較すると、「融雪に地下水を使用しない」「下水道又は合併処理浄化槽を使用している」事業者の割合が上昇しました。
- 一方で「使用水量の記録や水路、汚水マスの点検をしている」「雨水の地下浸透に取り組んでいる」人の割合が低下しました。
- 地下水位や河川美化を意識する事業者の割合が高いものの、雨水の地下浸透にまで取り組む事業者の割合は低く、使った分の地下水を浸透させ水循環に取り組む事業者を増やす必要があります。

項目	「取り組んでいる」「どちらかといえば取り組んでいる」人の割合 n=53	前回（R2） n=117	前回との差	取り組まない理由で最も多かったもの
融雪に地下水を使用しないようにしている	71.7%	69.3%	2.4	利便さ・快適さが損なわれる(40%)
節水を心がけている	88.7%	88.0%	0.7	特に気にかけていない(67%)
下水道に接続している又は、合併処理浄化槽を設置している	66.0%	59.0%	7.0	取り組む機会がない・該当しない(31%)
使用水量の記録や排水する水路や汚水マスの点検をしている	54.7%	57.2%	-2.5	取り組む機会がない・該当しない(32%)
敷地内緑化や雨水地下浸透設備の設置など、雨水の地下浸透に取り組んでいる	37.7%	41.9%	-4.2	取り組む機会がない・該当しない(52%)
河川や用水など地域の清掃活動や美化活動に参加している	67.9%	66.7%	1.2	取り組む機会がない・該当しない(59%)

⑤その他の対策

【問８】

【その他の対策】に関して、貴事業所の取組状況で当てはまるもの（１～４）を○で囲んでください。また、３・４のいずれかを選んだ場合は、下記欄 から最も近い理由１つを選び番号で記入してください。

＜下記欄＞

・利便さ・快適さが損なわれる	・必要だと思わない・効果に疑問がある
・従業員の理解・協力が得られない	・取り組む機会がない・該当しない
・費用がかかる	・情報や知識が足りない
・手間や時間がかかる	・特に気にかけていない
・利益につながらない	・その他

- 前回と比較すると、すべての項目で取り組む事業者の割合が上昇しました。
- 特に、「SDGs」「光害対策」に取り組んでいる事業者の割合が前回よりも大幅に上昇しました。この傾向を維持・上昇させていくため、SDGsの啓発活動やライトダウンキャンペーンの実施などに取り組んでいく必要があります。

項目	「取り組んでいる」「どちらかといえば取り組んでいる」人の割合 n=53	前回（R2） n=117	前回との差	取り組まない理由で最も多かったもの
ISO14001やエコアクション21、KESなどの環境マネジメントシステム等認証を取得（登録）している	15.1%	9.4%	5.7	取り組む機会がない・該当しない(29%)
SDGsの推進に取り組んでいる	56.6%	6.0%	50.6	特に気にかけていない(38%)
農地用や山林、野生生物の生息地等の保全に取り組んでいる	22.6%	15.3%	7.3	取り組む機会がない・該当しない(74%)
光害対策として、必要以上の照明設備は設置しない、カーテン等で光を漏らさないなどの取り組みを行っている	60.4%	43.6%	16.8	特に気にかけていない(59%)

(６)事業所の課題

【問９】
貴事業所が環境に配慮した取り組みを実践していくうえで、課題に感じる点についてお聞きします。
次の中から該当するものを全て選び、○を付けてください。

- 「知識やノウハウが不足している」「費用がかかる」ことを課題と感じている事業者が4割を上回りました。事業者向けの専門性の高いセミナーや設備投資への支援などの取組が必要と考えられます。
- その他、「相談先が分からない」「人がいない」「時間がない」「効果が見込めない」と回答する事業者が一定程度います。

n=53

項目	割合
知識やノウハウが不足している	45.3%
相談先がわからない	18.9%
取り組みを推進する人がいない	26.4%
取り組む時間がない	17.0%
業務量増加に見合う効果が見込めない	20.8%
費用に見合う効果が見込めない	22.6%
費用がかかる	45.3%
必要性がない	3.8%
特に課題はない	17.0%
その他	1.9%

【その他】よく分からない

(７)市に取り組んでほしい施策

【問10】
貴事業所が環境に配慮した取り組みを実践していくうえで、市に取り組んでほしい施策について
次の各項目の中から、３つを番号で記入してください。

- 「環境負荷を減らす設備導入に対する助成」と回答した事業者の割合が54.7%と前回同様、最も高くなり、前回よりも5.1ポイント上昇しました。
- 「事業者の取組事例等の情報発信」「事業者や社員向けの研修会の開催」と回答した事業者の割合が前回よりも10ポイント以上上昇しました。
- 持続的な成長に必要となる設備導入への支援や、事業者向けの専門性の高いセミナーの開催、事業者の取組事例の情報発信などの取組が必要と考えられます。

	n=53	n=117	
項目	割合	前回（R2）	前回 との差
環境負荷を減らす設備導入に対する助成	54.7%	49.6%	5.1
取組事例やガイドライン、関係法令等の情報提供	22.6%	35.9%	-13.3
事業者の取組事例等の情報発信	39.6%	26.5%	13.1
研究・学習・活動のための施設設備や拠点づくり	3.8%	10.3%	-6.5
事業者や社員向けの研修会の開催	22.6%	10.3%	12.3
監視体制や規制の強化	1.9%	11.1%	-9.2
取組を促すための制度や仕組みづくり	30.2%	41.0%	-10.8
自然資源を活用した都市間交流や働きかけ	3.8%	17.1%	-13.3
地下水や地球環境などの調査研究	11.3%	18.7%	-7.4
市民意識を高めるための環境教育・普及啓発の実施	30.2%	39.3%	-9.1
その他	0.0%	1.8%	-1.8

(８)カーボンニュートラルに関する認知度

【問11】
大野市は2035年までに温室効果ガスの排出量を全体としてゼロにするという「カーボンニュートラル」を目標に掲げ、その達成に向けて取り組んでいることを知っていますか。

- 市が掲げるカーボンニュートラルの目標（2035年までにCO_2実質ゼロ）を知っている事業者の割合は45.3%と低くなりました。取組内容を理解していない事業者の割合は75.5%となりました。
- 脱炭素化の推進のためには市民のみならず、産業部門、民生業務部門、運輸部門などに携わる事業者の取組が重要であるため、目標及び取り組み内容のさらなる啓発が必要です。

n=53

項目	割合
目標を知っており、取組内容も理解している	13.2%
目標を知っているが、取組内容は理解していない	32.1%
目標は知らなかったが、取組内容は理解している	7.5%
目標を知らなかったし、取組内容も理解していない	43.4%
無回答	3.8%
合計	100%

(9)事業所の取組事例

【問14】
事業所において、ごみ減量や省エネ対策などの環境に配慮した取り組みを行い、成果を得ることができた事例がありましたら記入をお願いします。

内容
施設内のすべての照明機器をLED化した。
冷暖房等の温度管理やゴミを減らすほか、コピー用紙の裏面活用をしている。その後資源ごみとしてリサイクル業者に引き取ってもらっている。アイドリングストップ、節水などを行っている。車や電化製品に関しては次回購入時に考えるかもしれない。
金属くずを本社、現場で区別し売却した分を適正に会計処理し、賞与に上乗せ支給することで分別意識を向上させた。
紙ゴミをシュレッダーにかけてゴミを少なくしている。
ペーパーレスを推進している。
ゴミ削減のために環境に対応した焼却炉を購入した。
店内照明、店外照明を含めて、LEDに変更し、空調設備とH27.8.24LED工事合せて、総使用量を半分以下に出来た。
可能な限りプラスチック製品を紙製品に変更した。
必要箇所以外の電気は消すように努めている。

(10)自由意見

【問15】
大野市の環境をより良いものとするため、アイデアやお考えがあればご自由にお書きください。

以下に自由意見を示します。（原文ではなく、要約しています）

内容
公共下水への全世帯加入を促進するべきである。また、用水路や排水路の清掃について、各町や区に任せるだけではなく、市としても業者に依頼し、広い地域で計画的に進めていくことが必要である。
脱炭素の取り組みと防災力強化を同時に進めるべきである。
環境とは直接関係ないが、市内児童のランドセルを市内にある企業の製品に統一することを提案する。価格が安価で、安全性が高く品質も良い。
市内家庭にLED電球や器具への交換を促進する助成金制度を導入するべきである。
道路の植え込みの雑草問題について、管理者が適切に対応するべきである。具体的には、店舗や空き家、貸駐車場の所有者に対し除草管理の指導を行い、対応がない場合は地区による清掃活動を補助して観光地としての魅力を維持向上させる取り組みを進めるべきである。また、市民や観光客が気持ちよく散策できる環境を整備し、車道の安全性を確保するべきである。

小学６年生・中学３年生向け アンケートの調査結果

(1)属性

①性別（問1）・学年（問２）

学校	学年	今回（R7）				前回（R2）合計
		男	女	無回答	合計	
有終西小学校	6	10	7	1	18	30
有終南小学校	6	20	19	2	41	66
有終東小学校	6	25	15	0	40	42
小山小学校	6	3	3	1	7	4
（乾側小学校）	6					3
下庄小学校	6	13	24	6	43	53
上庄小学校	6	6	7	8	21	25
阪谷小学校	6	0	2	0	2	6
富田小学校	6	11	10	0	21	17
和泉小学校	6	1	2	0	3	5
開成中学校	3	46	38	1	85	123
陽明中学校	3	40	62	5	107	144
合計		175	189	24	388	518

※前回（R2）の開成中には上庄中を、陽明中には尚徳中・和泉中を含む

(２)大切にしたい身近な環境

【問３】
次の項目の中から、家の周りの身近な環境（家の周りなど）で特に大切にしたいと思うものを３つ選んで番号を書いてください。

- 「空気のきれいさ」を選んだ人の割合が45.1%となり、前回同様最も高くなりました。
- 13項目中7項目で前回を上回りましたが、「空気のきれいさ」「地下水のきれいさ」は、前回よりも10ポイント程度低くなりました。特に、「地下水のきれいさ」は前回よりも11.2ポイント低くなっており、学校教育や社会教育など、あらゆる機会を活用し、地下水保全や健全な水循環の重要性についての理解を高めるための取組が必要です。
- 「星空の美しさ」は前回よりも8.6ポイント高くなっており、令和５年度の星空保護区の認定により、星空を大切だと思う意識が高まったことが考えられます。

項目	今回（R7） n=388	前回（R2） n=518	前回との差
緑の豊かさ	24.7%	29.7%	-5
自然（林、水辺、動植物、昆虫）が身近にあること	26.5%	30.5%	-4
空気のきれいさ	45.1%	53.3%	-8.2
星空の美しさ	32.5%	23.9%	8.6
においが気にならないこと（悪臭がしない）	20.9%	15.4%	5.5
川のきれいさ（河川・用水路）	12.9%	19.3%	-6.4
地下水のきれいさ	22.4%	33.6%	-11.2
まちの静かさ（騒音、振動が気にならない）	10.6%	7.7%	2.9
まちの清潔さ（ごみの少なさ）	22.7%	17.0%	5.7
景色や街並みの美しさ	13.1%	12.5%	0.6
歴史的な建物等や、地区の祭り・伝統行事が残っていること	15.7%	17.0%	-1.3
市民のマナーの良さ（ポイ捨て・ごみ分別など）	22.9%	16.0%	6.9
暮らしの安全性（有害な物質から守られていること）	26.8%	21.6%	5.2

（３）知りたい・学びたい環境問題

【問４】
次の環境問題の中から、「知りたい」又は「学びたい」と思うすべての項目に○をつけてください。

- 11項目中7項目で知りたい又は学びたいと思う割合が前回を上回りましたが、「二酸化炭素による気候変動」「地下水が飲み水として使えなくなる問題」は、下回りました。
- 今回新たに設定した項目の「自然が失われる問題」「絶滅しそうな生物がいる問題」について、６割前後と全体のなかでも高い割合となっており、自然や生き物とふれあう機会の充実が必要と考えられます。

項目	今回（R7）n=388	前回（R2）n=518	前回との差
ゴミが増えすぎている問題	41.5%	38.6%	2.9
二酸化炭素などにより地球の気候が変動している問題	55.9%	59.7%	-3.8
自然（森や川、緑）が失われる問題	61.6%	設問なし	—
絶滅しそうな動植物や昆虫がいる問題	58.8%	設問なし	—
地下水の使い過ぎなどで飲み水などが使えなくなる問題	49.0%	45.9%	3.1
資源やエネルギーが少なくなっている問題	39.2%	31.5%	7.7
自動車や工場などからの排気ガスなどによって空気がよごれる問題	35.6%	33.6%	2.0
家庭や工場などから流れ出る水などによって川の水がよごれる問題	37.9%	34.4%	3.5
地下水がよごれて、飲み水などが使えなくなる問題	46.4%	50.8%	-4.4
自動車や工場などからの騒音、振動で迷惑する問題	21.9%	21.2%	0.7
外でものを燃やすけむりや工場から嫌なにおいが出される問題	39.2%	29.0%	10.2

（４）学校や家での取組状況

【問５】
あなたがふだん、学校や家で取り組んでいる環境にやさしい行動について、あてはまる番号に○をつけてください。
（複数回答可）

- 10項目中7項目で「いつも取り組んでいる」「ときどき取り組んでいる」人の割合が前回を上回りました。SDGsの普及などを背景に、子どもたちが身近なできることに取り組み、家庭生活や学校生活における環境配慮の基本的なマナーが定着していることがうかがえます。引き続き、マイバッグ活動や紙ごみの分別、環境にやさしい商品を選ぶことの大切さを理解してもらうための啓発活動が必要です。
- 子どもであることから、消費行動に関する取組状況は低い傾向がありますが、前回より改善が見られました。

	n=388	n=518	
項目	「いつも取り組んでいる」「ときどき取り組んでいる」人の割合	前回（R2）	前回との差
蛇口やシャワーをこまめに止めるなど、水のむだ使いをしないようにしている	89.2%	83.6%	5.6
買い物では、マイバックをもっていき、レジ袋を受け取らないようにしている	68.6%	65.6%	3.0
空き缶やペットボトルは分別している	84.5%	86.3%	-1.8
エコマークなどがついている商品やリサイクル品など、環境にやさしい商品を選んで買っている	29.6%	22.4%	7.2
川遊びやスキー、キャンプ、自然観察などを通じて、大野の自然にふれあい、楽しんでいる	63.1%	68.9%	-5.8
食べ物は残さず食べている	89.9%	92.1%	-2.2
お菓子のから箱やメモ用紙などは分別し、燃やせるごみには出さないようにしている	63.1%	55.4%	7.7
エアコンの設定温度を下げすぎ（上げすぎ）ないようにしている	76.3%	69.1%	7.2
人のいない部屋の照明や見ていないテレビ等の家電はつけっぱなしにしないようにしている	89.9%	86.1%	3.8
物は大切にして長く使うようにしている	91.8%	75.7%	16.1

(５)周辺環境を守るためにできること

【問６】
大野市やあなたの家の周りなどの環境を守るために、あなたができること、参加したいと思うことを３つ選んで番号を書いてください。

- 15項目中9項目でできること、「できること、参加したい」と思う割合が前回を下回りました。特に、「外来生物を追い払う活動」「都会の小中学生との自然の中での交流」は、1割近く下回りました。
- 「できること、参加したい」と思う割合が最も高かったもののは「星空の観察」でした。令和５年度の星空保護区の認定により、星空保護に対する意識が高まっているといえます。一方で、10%に満たなかった項目は「地下水を調べるイベント」「ごみ処理施設や下水処理施設の見学」「フリーマーケットなどへの参加」「都会の小中学生との自然の中での交流」でした。

項目	今回（R7）n=388	前回（R2）n=518	前回との差
新聞やアルミ缶などの資源回収	20.9%	21.6%	-0.7
ごみや空き缶拾いなどの地域をきれいにする活動	33.0%	30.1%	2.9
草花などを植える活動	20.6%	26.1%	-5.5
地下水の水質や量などを調べるイベントの参加	8.2%	13.1%	-4.9
田畑や林・森・山を守る活動	18.8%	19.3%	-0.5
身近な自然（動植物や昆虫・化石）の観察会	19.3%	18.1%	1.2
外来生物（もともとその地域にいなかった動植物）を見つけて追い払う活動	15.7%	25.5%	-9.8
野外キャンプなどの自然を体験するイベント	27.6%	33.0%	-5.4
農作業の手伝いや体験農園などでの農作業体験	11.3%	12.2%	-0.9
星空の観察	43.8%	40.9%	2.9
歴史的・文化的なまちなみや風景を巡るイベント	16.8%	11.0%	5.8
ごみ処理施設や下水処理施設などの見学	5.9%	4.2%	1.7
フリーマーケットやバザーなどへの参加	8.0%	11.0%	-3.0
地球環境問題を体験的に学ぶイベント	10.1%	9.8%	0.3
都会の小中学生との、大野の自然の中での交流	8.8%	18.7%	-9.9
御清水や中野清水などの湧水地をきれいにする活動	11.6%	設問なし	－
雨水をためて、花などの水やりに使う活動	14.2%	設問なし	－

（６）地下水位の計測

【問７－①】

毎日、市民が市内１６ヶ所で地下水の水位を計測して、掲示板でお知らせしていることを知っていますか。

- 地下水位の計測と掲示については、児童生徒の70.6%が知っており、市民（16歳以上）とほぼ同様の割合になりました。
- 地下水位の計測活動は年齢を問わず認知されており、市民の日常に溶け込んでいるといえます。

n＝388

項目	割合
知っている	70.6%
知らない	27.1%
無回答	2.3%
合計	100%

【参考】市民（16歳以上）の回答

n＝303

項目	割合
知っている	71.0%
知らない	24.1%
無回答	4.9%
合計	100%

【問７－②】

掲示板で地下水の水位をお知らせすることは、市民にとって大切なことだと思いますか。

- 地下水位の掲示については、児童生徒の80.7%が、「思う」「どちらかといえば思う」と回答し、高い割合を示しています。
- 市民（16歳以上）とほぼ同様の割合となり、地下水位に対し高い関心を持っていることがうかがえます。

n＝388

項目	割合
思う	35.3%
どちらかといえば思う	45.4%
どちらかといえば思わない	10.3%
思わない	5.2%
無回答	3.9%
合計	100%

【参考】市民（16歳以上）の回答

n＝388

項目	割合
思う	51.8%
どちらかといえば思う	33.7%
どちらかといえば思わない	5.3%
思わない	4.3%
無回答	4.9%
合計	100%

（７）環境や水に関する仕事への関心

【問８】

将来、大野市内で環境や水に関わる仕事（※）につきたいと思いますか。

- 「思わない」「どちらかといえば思わない」と答えた児童生徒が70.4%となりました。
- 今回の調査に追加した新しい項目ですが、児童生徒には、環境や水に関わる仕事に対するイメージがつきにくく、例示の業種に対する回答になったと推測されます。今後は、環境や水に関わる仕事を実践している大人を紹介するなど、児童生徒の職業選択のモデルとなるような取り組みの啓発が必要です。

n＝388

項目	割合
思う	7.7%
どちらかといえば思う	19.6%
どちらかといえば思わない	34.3%
思わない	36.1%
無回答	2.3%
合計	100%

(８)大野のお気に入りの場所や風景

【問９・問10】
大野市内で、あなたにとってお気に入りの場所や風景などはありますか。
「ある」場合は、お気に入りの場所や風景などを３つ以内で書いてください。また、なぜそう思うのか、その理由も書いてください。

【上位10位】

順位	場所や風景	割合 （全体 n=438）	主な理由
1	越前大野城、城からの眺め、亀山	20.1%	・そこから見える町や景色が美しく感じるから ・大野のほとんどの場所から見えてかっこいいと感じるから ・城や亀山の景色が美しいと感じるから ・歴史を学べて楽しいと感じるから ・季節ごとに異なる景色や自然の豊かさを楽めるから
2	星空、六呂師の星空	11.4%	・星がとてもきれいに見えるから ・夜空が静かで落ち着くから ・季節によって異なる星空を楽しめるから ・自然の美しさと夜景の美しさを楽しむことができるから
3	御清水、清水各所	11.0%	・冷たくて美味しいから ・水がきれいだから ・夏に行くと涼しいから
4	家、家の周辺、家からのながめ	5.5%	・落ち着く、安心するから
5	学校	5.3%	・みんなと遊べるから ・部活の練習ができるから ・芝生が気持ち良いから
6	山々の風景	4.8%	・緑が多くきれいだから ・季節によって色が変わるから ・安心感がある景色だから
7	特定の公園 （ふれあい公園のぞく）	4.1%	・たくさん遊んだ思い出の場所だから ・桜がきれいだから ・ごみが少なくきれいだから
8	おおの天空パークOSORA	3.4%	・遊具があって遊べるから ・雨の日でも遊べるから
8	本願清水イトヨの里	3.4%	・イトヨを見れる、学べるから ・涼しいから
10	奥越ふれあい公園	3.0%	・遊具があって遊べるから ・自然がたくさんあるから

【前回】１位　越前大野城（11.6%）　２位　本願清水イトヨの里（9.3%）　３位　御清水（7.7%）

資料（調査票）

（１）市民向けアンケート調査票

発送日：令和７年４月１１日

環境・水に関するアンケート調査へのご協力のお願い【市民向け】

大野市は、令和３年度から令和１２年度までの１０年間を計画期間とする「第三期大野市環境基本計画」及び「大野市水循環基本計画」（以下「両計画」という。）に基づき、環境保全や水循環などに関する施策に取り組んでいます。

令和７年度末に両計画の策定から５年が経過することから、市民の皆さまの意識の変化や社会情勢の変化などを踏まえ、令和７年度中に両計画の中間見直しを行うこととしました。

つきましては、広く市民の皆さまのご意見をお聴きするため、１６歳以上の方から、無作為に抽出した９００人の市民の皆さまを対象にアンケート調査を行います。この調査は、無記名のため個人を特定することはなく、回答結果は、すべて統計的に処理し、結果の分析や両計画の見直しと推進以外の目的には一切使用することはございません。

お忙しいところ誠に恐れ入りますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

大野市長　石山志保

回答に当たってのお願い

① 回答は、あて名のご本人がご記入ください（代筆可）

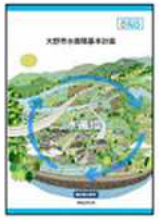
② 回答に記入漏れが無いか確認のうえ、**４月３０日（水）まで**にご回答ください。

③ 「返信用封筒（切手不要）」、または「WEB フォーム」のいずれかの方法により、ご回答ください。
（WEB フォームをご利用の場合、以下のＱＲコードからご回答ください）

回答・問合せ先
大野市くらし環境部　環境・水循環課
大野市天神町１－１（１階　１０番窓口）
電話　６４－４８２８
電子メール　kankyo@city.fukui-ono.lg.jp

【参考】中間見直しを行う計画

●第三期大野市環境基本計画
大野の良好な環境を保全・創造することを目指し、「自然との共生社会の形成」「脱炭素社会への移行」「資源循環型社会の構築」「快適な生活環境の保全」などに関する施策を掲げた計画



●大野市水循環基本計画
大野の恵まれた水環境を守り、未来に引き継いでいくことを目指し、「流域マネジメントの推進」「水循環に関わる人材の育成と水文化の継承」「災害や気候変動等への対応」などに関する施策を掲げた計画

◆お住まいの周辺環境に対する「満足度」と「重要度」についてお聞きします。

問1　お住まいの周辺環境に対するあなたの「満足度」で当てはまるもの（1～4）を○で囲んでください。
また、そのうち、「市の対策として重要と思う項目（＝重要度）」を3つ選び○を付けてください。

項目		満足度				重要度
		満足	ほぼ満足	やや不満	不満	市の対策として重要と思う項目を3つ選び「○」を付けてください
①	緑の豊かさ	1	2	3	4	
②	身近な自然（里山、水辺、動植物）への親しみやすさ	1	2	3	4	
③	空気のきれいさ	1	2	3	4	
④	星空の美しさ	1	2	3	4	
⑤	においが気にならないこと（悪臭がしない）	1	2	3	4	
⑥	川のきれいさ（河川・用水路）	1	2	3	4	
⑦	地下水のきれいさ	1	2	3	4	
⑧	まちの静かさ（騒音、振動が気にならない）	1	2	3	4	
⑨	まちの清潔さ（ごみの少なさ）	1	2	3	4	
⑩	景色や街並みの美しさ	1	2	3	4	
⑪	歴史・文化との接しやすさ（歴史的な建築物等に接する機会、地区の祭り・伝統行事などにふれあう機会）	1	2	3	4	
⑫	市民のマナーの良さ（ポイ捨て・ごみ分別など）	1	2	3	4	
⑬	暮らしの安全性（ダイオキシンや環境ホルモンなど環境面からの暮らしの安全性）	1	2	3	4	

◆環境問題に対する「関心度」と「重要度」についてお聞きします。

問2　環境問題に対するあなたの「関心度」で当てはまるもの（1～4）を○で囲んでください。
また、そのうち、「市の対策として重要と思う項目（＝重要度）」を3つ選び○を付けてください。

項目		関心度				重要度
		ある	少しある	あまりない	ない	市の対策として重要と思う項目を3つ選び「○」を付けてください
①	大気汚染（硫黄酸化物、PM2.5 など）	1	2	3	4	
②	河川の水質汚濁	1	2	3	4	
③	地下水の水質汚濁、地下水位の低下	1	2	3	4	
④	自動車や工場などからの騒音・振動	1	2	3	4	
⑤	悪臭、地盤沈下、土壌汚染	1	2	3	4	
⑥	優れた自然環境の破壊、希少な動植物・昆虫の減少	1	2	3	4	
⑦	身近な地域における自然や生き物（ホタルやメダカなど）の減少	1	2	3	4	
⑧	水・食料・エネルギーの枯渇	1	2	3	4	
⑨	ごみ問題（ごみの増加、不法投棄、食品ロス、不適正処理など）	1	2	3	4	
⑩	気候変動問題（異常気象、災害の頻発化、熱中症など）	1	2	3	4	
⑪	その他（　　）					

◆あなたの日常生活における取組状況についてお聞きします。

問3 【地下水・湧水・河川の保全】に関して、あなたの取組状況で当てはまるもの（1～4）を○で囲んでください。
また、3・4のいずれかを選んだ場合は、下記欄から最も近い理由1つを選び番号で記入してください。

	項目	取組状況				理由
		取り組んでいる	どちらかといえば取り組んでいる	どちらかといえば取り組んでいない	取り組んでいない	3・4のいずれかを選んだ理由
①	蛇口やシャワーをこまめに止めるなど、節水を心がけている	1	2	3	4	⇒
②	洗濯機、シャワーやトイレなどは節水型のものを使用している	1	2	3	4	⇒
③	融雪には、地下水を使用しないようにしている	1	2	3	4	⇒
④	雨水タンクなどを設置して有効利用している	1			4	⇒
⑤	雨水浸透設備など、雨水の地下浸透に取り組んでいる	1			4	⇒
⑥	下水道や農業集落排水に接続している。または合併浄化槽※を設置している ※生活雑排水を処理する浄化槽	1	2	3	4	⇒
⑦	用水や水路の清掃活動に参加している	1	2	3	4	⇒
⑧	湧水地や河川環境に触れ合うイベントや保全活動に参加している	1	2	3	4	⇒

「3 どちらかといえば取り組んでいない」「4 取り組んでいない」を選んだ理由

1 生活の便利さ快適さがなくなるから　2 費用がかかるから　3 手間や時間がかかるから
4 効果に疑問があるから　5 取り組む機会がないから　6 取り組み方がわからないから
7 特に気にかけていないから　8 その他

問4 【ごみ減量・循環型社会構築】に関して、あなたの取組状況で当てはまるもの（1～4）を○で囲んでください。
また、3・4のいずれかを選んだ場合は、下記欄から最も近い理由1つを選び番号で記入してください。

	項目	取組状況				理由
		取り組んでいる	どちらかといえば取り組んでいる	どちらかといえば取り組んでいない	取り組んでいない	3・4のいずれかを選んだ理由
①	牛乳パックやトレイ、段ボールなどはスーパーなどのリサイクルボックスに入れている	1	2	3	4	⇒
②	マイバック等を持参し、レジ袋を受け取らないようにしている	1	2	3	4	⇒
③	詰め替え商品や繰り返し使用できる製品を選んで購入している	1	2	3	4	⇒
④	エコマークなど環境に配慮した製品を選んで購入している	1	2	3	4	⇒
⑤	食べ残しをしない、必要以上に食料品を買わないなど、「食品ロス」が出ないように取り組んでいる	1	2	3	4	⇒
⑥	お菓子の空箱やチラシ、メモ用紙などの「雑がみ」は分別して、燃やせるごみには出さないようにしている	1	2	3	4	⇒
⑦	不用になったものは安易に廃棄せず、知人等に譲ったり、リサイクルショップなどを活用したりしている	1	2	3	4	⇒
⑧	資源回収活動などに積極的に参加している	1	2	3	4	⇒
⑨	プラスチックごみを正しく分別し、市の収集日に出している	1	2	3	4	⇒

「「3 どちらかといえば取り組んでいない」「4 取り組んでいない」を選んだ理由

1 生活の便利さ快適さがなくなるから　2 費用がかかるから　3 手間や時間がかかるから
4 効果に疑問があるから　5 取り組む機会がないから　6 取り組み方がわからないから
7 特に気にかけていないから　8 その他

問5 【地球温暖化防止・省エネルギー推進】に関して、あなたの取組状況で当てはまるもの（1～4）を○で囲んでください。また、3・4のいずれかを選んだ場合は、下記欄から最も近い理由1つを選び番号で記入してください。

	項目	取組状況				理由
		取り組んでいる	どちらかといえば取り組んでいる	どちらかといえば取り組んでいない	取り組んでいない	3・4のいずれかを選んだ理由
①	冷暖房の適温設定や不必要な照明の消灯し、節電を心がけている	1	2	3	4	⇒
②	自転車や公共交通機関を積極的に利用している	1	2	3	4	⇒
③	アイドリングや急発進をしないなど、エコドライブを実践している	1	2	3	4	⇒
④	ハイブリッド車や電気自動車など、環境に配慮した自動車を使用している	1			4	⇒
⑤	家電を購入する際は、省エネ型など環境性能の良い商品を選んでいる	1	2	3	4	⇒
⑥	住宅に太陽光発電設備や蓄電池を設置している	1			4	⇒
⑦	住宅に高断熱化設備や省エネ設備を設置している	1			4	⇒
⑧	宅配便は日時を指定し、再配達とならないようにして受け取っている	1	2	3	4	⇒
⑨	木材を購入する際には、県産材を選んでいる	1	2	3	4	⇒

「3 どちらかといえば取り組んでいない」「4 取り組んでいない」を選んだ理由

1 生活の便利さ快適さがなくなるから　2 費用がかかるから　3 手間や時間がかかるから
4 効果に疑問があるから　5 取り組む機会がないから　6 取り組み方がわからないから
7 特に気にかけていないから　8 その他

問6 【自然とのふれあい・自然保護】に関して、あなたの取組状況で当てはまるもの（1～4）を○で囲んでください。また、3・4のいずれかを選んだ場合は、下記欄から最も近い理由1つを選び番号で記入してください。

	項目	取組状況				理由
		取り組んでいる	どちらかといえば取り組んでいる	どちらかといえば取り組んでいない	取り組んでいない	3・4のいずれかを選んだ理由
①	川釣りや自然の中でのレクリエーションなど、大野の自然とふれあい、楽しんでいる	1	2	3	4	⇒
②	川や山を訪れた際は、不要な採取や餌付け、生き物のすみかを荒らす行為はしないように注意している	1	2	3	4	⇒
③	よく晴れた夜は、星空を見上げている	1	2	3	4	⇒
④	農地や所有林の保全に心がけている	1	2	3	4	⇒
⑤	家庭での野外焼却や不適切な焼却炉による焼却は行わないようにしている	1	2	3	4	⇒
⑥	ペット・園芸植物等が逸出・野生化しないよう管理・飼育・栽培をしている	1	2	3	4	⇒
⑦	文化財や伝統芸能を守る活動に参加している	1	2	3	4	⇒
⑧	地元の農林水産物を購入し、地産地消に取り組んでいる	1	2	3	4	⇒

「3 どちらかといえば取り組んでいない」「4 取り組んでいない」を選んだ理由

1 生活の便利さ快適さがなくなるから　2 費用がかかるから　3 手間や時間がかかるから
4 効果に疑問があるから　5 取り組む機会がないから　6 取り組み方がわからないから
7 特に気にかけていないから　8 その他

問7 【公害発生の防止・環境学習】に関して、あなたの取組状況で当てはまるもの（1～4）を○で囲んでください。
また、3・4のいずれかを選んだ場合は、下記欄から最も近い理由1つを選び番号で記入してください。

	項目	取組状況				理由
		取り組んでいる	どちらかといえば取り組んでいる	どちらかといえば取り組んでいない	取り組んでいない	3・4のいずれかを選んだ理由
①	食器の油汚れをふき取るなど、生活雑排水対策に取り組んでいる	1	2	3	4	⇒
②	近隣の住宅に配慮し、迷惑をかけるような音（騒音）を出さないようにしている	1	2	3	4	⇒
③	空き缶やごみのポイ捨て（不法投棄）を行わないようにしている	1	2	3	4	⇒
④	環境に関する学習会やイベントに積極的に参加している	1	2	3	4	⇒
⑤	環境に関する取り組みの情報収集を積極的に行っている	1	2	3	4	⇒

「3 どちらかといえば取り組んでいない」「4 取り組んでいない」を選んだ理由

1 生活の便利さ快適さがなくなるから　2 費用がかかるから　3 手間や時間がかかるから
4 効果に疑問があるから　5 取り組む機会がないから　6 取り組み方がわからないから
7 特に気にかけていないから　8 その他

◆「地下水位の計測」についてお聞きします。

問8 「地下水位の計測」について当てはまるものを○で囲んでください。

①	毎日、市民が地下水位を市内16ヶ所で計測し、掲示板でお知らせしていることを知っていますか。	1 知っている 2 知らない
②	掲示板で地下水位をお知らせすることは、市民にとって大切だと思いますか。	1 思う 2 どちらかといえば思う 3 どちらかといえば思わない 4 思わない
③	②で「3 どちらかと言えば思わない」「4 思わない」を選んだ場合、その理由を○で囲んでください。（複数回答可） 1 関心がないから　2 目的が分からないから　3 効果に疑問があるから 4 その他（　　）	

◆「生物多様性」についてお聞きします。

問9 「生物多様性」について当てはまるものを○で囲んでください。

①	地球上には何百万種類もの生物が存在し、これらの生物が、例えば、食べる・食べられるなど、お互いを利用し、支え合うといった繋がりの中で生きていることを「生物多様性」と呼びます。 あなたは、この「生物多様性」という言葉と意味を知っていましたか。	1 言葉も意味も知っていた 2 言葉は知っていて、意味も少しは知っていた 3 言葉は聞いたことがあった 4 言葉も意味も知らなかった

◆「カーボンニュートラル」についてお聞きします。

問10 「カーボンニュートラル」について当てはまるものを○で囲んでください。

①	大野市は2035年までに温室効果ガスの排出量を全体としてゼロにするという「カーボンニュートラル」を目標に掲げ、その達成に向けて取り組んでいることを知っていますか。	1 目標を知っており、取組内容も理解している 2 目標を知っているが、取組内容は理解していない 3 目標は知らなかったが、取組内容は理解している 4 目標を知らなかったし、取組内容も理解していない

◆「将来に残したい環境や場所、風景」についてお聞きします。

問11 あなたが、大野市の誇りや象徴として、特に将来に残していきたいと思う環境や場所、風景などをお聞きします。①～⑨の中で特に残したいと思うものを3つ選んで番号を記入してください。

	項目	残したいもの（3つ）
①	御清水をはじめとする湧水地・名水（地下水）	□
②	日本百名山荒島岳や山々の連なり	
③	九頭竜湖の風景	
④	イトヨが生息する水環境	□
⑤	六呂師高原	
⑥	星空保護区に選ばれた星空	
⑦	田園風景	
⑧	歴史的風情の残る町割や町並み	□
⑨	その他　自由記載 （　　）	

◆今後の市の環境保全に関する施策についてお聞きします。

問12 あなたが、今後の市の環境保全に関する施策で重点的に進めるべきだと思う施策を3つ選んで番号を記入してください。

	項目	重点的に進めるべきだと思う施策（3つ）
①	自然とのふれあいの増進や生物多様性の確保	□
②	農地や山林の保全と活用	
③	太陽光発電・木質バイオマス発電などの再生可能エネルギーの利用促進	
④	省エネルギー、省資源対策の推進	□
⑤	災害対策・熱中症予防などの気候変動適応策の推進	
⑥	ごみの減量・資源化の推進	
⑦	公害対策の推進や環境美化の促進	
⑧	良好な景観形成や歴史的・文化的遺産の保存	□
⑨	環境学習機会の充実や環境に関する情報発信	
⑩	その他　自由記載 （　　）	

◆今後の市の水循環に関する施策についてお聞きします。

問 13　あなたが、今後の市の水循環に関する施策で重点的に進めるべきだと思う施策を3つ選んで番号を記入してください。

	項目	重点的に進めるべきだと思う施策(3 つ)
①	森林や河川、農地などで地下水を涵養させる機能の向上	
②	水の安定的な供給と有効利用の促進	
③	水のみえるまちづくりの推進と美しい水辺空間の保全と活用	
④	地下水や河川水などの水質保全	
⑤	名水を活用した観光や特産品のブランディングなど地域活性化の推進	
⑥	水循環に関する教育や人材育成、研究の推進	
⑦	湧水地やイトヨなどの水文化の保全と継承	
⑧	洪水や地震などに備えた施設、組織の機能強化	
⑨	気候変動による水循環への影響調査と適応策の検討	
⑩	渇水・汚染などの地下水障害の予防対策	
⑪	その他　自由記載 (　　)	

◆あなたご自身のことについてお聞きします。

あてはまる番号に○を付けてください。

問 14　あなたの性別

1 男　　2 女　　3 回答しない

問 15　あなたの年齢

1 10 歳代	2 20 歳代	3 30 歳代	4 40 歳代
5 50 歳代	6 60 歳代	7 70 歳	8 80 歳以上

問 16　あなたの居住地区

1 大野地区	2 下庄地区	3 乾側地区	4 小山地区	5 上庄地区
6 富田地区	7 阪谷地区	8 五箇地区	9 和泉地区	10 わからない

◆自由意見

問 17　大野市の環境保全・水循環への取り組みに対し、ご意見やアイデアがありましたらご自由にお書きください。

アンケートは以上で終了です。ご協力ありがとうございました。

（２）事業者向けアンケート調査票

発送日：令和７年４月１１日

環境・水に関するアンケート調査へのご協力のお願い【事業者向け】

大野市は、令和３年度から令和１２年度までの１０年間を計画期間とする「第三期大野市環境基本計画」及び「大野市水循環基本計画」（以下「両計画」という。）に基づき、環境保全や水循環などに関する施策に取り組んでいます。

令和７年度末に両計画の策定から５年が経過することから、市民や事業者の皆さまの意識の変化や社会情勢の変化を踏まえ、令和７年度中に**両計画の中間見直し**を行うこととしました。

つきましては、広く事業者の皆さまのご意見をお聴きするため、**無作為に抽出した１００件の事業者の皆さまを対象にアンケート調査**を行います。この調査は、無記名のため事業者を特定することはなく、回答結果は、すべて統計的に処理し、結果の分析や両計画の見直しと推進以外の目的には一切使用することはございません。

お忙しいところ誠に恐れ入りますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

大野市長　石山志保

回答に当たってのお願い

① 回答に記入漏れが無いか確認のうえ、**４月３０日（水）まで**にご回答ください。

② **「返信用封筒（切手不要）」、または「WEB フォーム」のいずれかの方法**により、ご回答ください。
（WEB フォームをご利用の場合、以下のQRコードからご回答ください）

回答・問合せ先
大野市くらし環境部　環境・水循環課
大野市天神町１－１（１階　１０番窓口）
電話　６４－４８２８
電子メール　kankyo@city.fukui-ono.lg.jp

【参考】中間見直しを行う計画

●第三期大野市環境基本計画
大野の良好な環境を保全・創造することを目指し、「自然との共生社会の形成」「脱炭素社会への移行」「資源循環型社会の構築」「快適な生活環境の保全」などに関する施策を掲げた計画

●大野市水循環基本計画
大野の恵まれた水環境を守り、未来に引き継いでいくことを目指し、「流域マネジメントの推進」「水循環に関わる人材の育成と水文化の継承」「災害や気候変動等への対応」などに関する施策を掲げた計画

◆貴事業所における環境保全に対する考え方についてお聞きします。

問１　貴事業所は、経済活動と環境保全の関係について、どのようにお考えですか。次の各項目の中から、最もあてはまる番号を１つお書き下さい。

記入欄

1　企業の社会的な立場を考え、環境保全に最善を尽くしている
2　経済活動を継続していくためには、環境保全にも一定の配慮をする
3　環境保全も大切だと思うが、どちらかというと経済活動を優先させる
4　事業所存続のために、経済活動を優先させる
5　環境保全に関わる新たな技術開発などを今後の経営に活かしたい
6　その他（　　）

問２　貴事業所が、環境対策に取り組まれている理由は何ですか。次の各項目の中から、主なものを選んで、番号を記入してください。（３つ以内）

記入欄

1　法令を遵守するために必要だから
2　取引先から環境対策を求められているから
3　社会や消費者の環境意識が高いため、企業として取り組まざるを得ないから
4　企業の社会的責任であると考えるから
5　事業所や製品、商品などのイメージアップにつながるから
6　省エネルギーや資源のリサイクルは結果的にコスト削減につながるから
7　新たな商品開発や顧客獲得につながるから
8　特に環境対策には取り組んでいない
9　その他（　　）

問３　貴事業所の業態における企業活動が周囲に与えている環境負荷があるとしたら何があると思いますか。影響があると思われるものを選んで番号をお書き下さい。（３つ以内）

記入欄

1　大気汚染　　2　水質汚濁　　3　土壌汚染
4　騒音　　5　振動　　6　悪臭
7　有害化学物質　　8　生態系への影響　　9　気候変動
10　事業系一般廃棄物　　11　産業廃棄物　　12　地下水位への影響
13　特に環境負荷はない

◆貴事業所の取組状況についてお聞きします。

問4 【公害防止対策】に関して、貴事業所の取組状況で当てはまるもの（1～4）を○で囲んでください。
また、3・4のいずれかを選んだ場合は、下記欄から最も近い理由1つを選び番号で記入してください。

項目		取組状況				理由
		取り組んでいる	どちらかといえば取り組んでいる	どちらかといえば取り組んでいない	取り組んでいない	3・4のいずれかを選んだ理由
①	野外焼却や不適切な焼却炉による焼却は行わないようにしている	1	2	3	4	⇒
②	大気汚染対策として、ばい煙や粉じん等の集じん設備を設置している	1			4	⇒
③	水質汚濁防止装置等を設置している	1			4	⇒
④	悪臭や振動、騒音を防ぐ装置を設置するなどの防止対策に取り組んでいる	1	2	3	4	⇒
⑤	PCB・アスベスト等有害化学物質を適正に管理・処理している	1			4	⇒
⑥	化学物質や化学肥料を適正に管理保管し、使用量を低減するように努めている	1	2	3	4	⇒

「3 どちらかといえば取り組んでいない」「4 取り組んでいない」を選んだ理由

1 利便さ・快適さが損なわれる　2 従業員の理解・協力が得られない　3 費用がかかる　4 手間や時間がかかる
5 利益につながらない　6 必要だと思わない・効果に疑問がある　7 取り組む機会がない・該当しない
8 情報や知識が足りない　9 特に気にかけていない　10 その他

問5 【地球温暖化防止・省エネルギーの推進】に関して、貴事業所の取組状況で当てはまるもの（1～4）を○で囲んでください。
また、3・4のいずれかを選んだ場合は、下記欄から最も近い理由1つを選び番号で記入してください。

項目		取組状況				理由
		取り組んでいる	どちらかといえば取り組んでいる	どちらかといえば取り組んでいない	取り組んでいない	3・4のいずれかを選んだ理由
①	冷暖房の適温設定や不必要な照明の消灯など、節電を心がけている	1	2	3	4	⇒
②	アイドリングや急発進をしないなどのエコドライブを実践している	1	2	3	4	⇒
③	自転車や公共交通機関を積極的に利用している	1	2	3	4	⇒
④	ノーマイカー運動（従業員のマイカー出退勤を控える運動）に取り組んでいる	1	2	3	4	⇒
⑤	太陽光発電など、再生可能エネルギーを導入・活用している	1	2	3	4	⇒
⑥	廃熱などの余剰エネルギーを利用している	1	2	3	4	⇒
⑦	電化製品や機器は省資源・省エネルギー型のものを導入している	1	2	3	4	⇒
⑧	ハイブリッドカーや電気自動車などの電動車を導入している	1	2	3	4	⇒
⑨	エネルギー使用料の把握やCO2削減目標等の管理をしている	1	2	3	4	⇒

「3 どちらかといえば取り組んでいない」「4 取り組んでいない」を選んだ理由

1 利便さ・快適さが損なわれる　2 従業員の理解・協力が得られない　3 費用がかかる　4 手間や時間がかかる
5 利益につながらない　6 必要だと思わない・効果に疑問がある　7 取り組む機会がない・該当しない
8 情報や知識が足りない　9 特に気にかけていない　10 その他

問6 【ごみ減量・循環型社会構築】に関して、貴事業所の取組状況で当てはまるもの（1～4）を○で囲んでください。
また、3・4のいずれかを選んだ場合は、下記欄から最も近い理由1つを選び番号で記入してください。

項目		取組状況				理由
		取り組んでいる	どちらかといえば取り組んでいる	どちらかといえば取り組んでいない	取り組んでいない	3・4のいずれかを選んだ理由
①	事業系一般廃棄物及び産業廃棄物をそれぞれの分類ごとに把握し、適正に処理している	1	2	3	4	⇒
②	両面印刷や使用済みの紙の裏面使用、ペーパーレス化、再生紙の使用など紙製品の使用削減に取り組んでいる	1	2	3	4	⇒
③	リサイクルや再利用などにより廃棄物の減量化に取り組んでいる	1	2	3	4	⇒
④	廃棄物の分類や排出量を記録するなど、管理体制を確立している	1	2	3	4	⇒
⑤	環境に配慮した商品の販売や製品作りに取り組んでいる	1	2	3	4	⇒
⑥	リサイクル製品等環境に配慮した原材料や製品を使用している	1	2	3	4	⇒
⑦	商品梱包の簡素化に取り組んでいる	1	2	3	4	⇒
⑧	レジ袋の有料化やマイバッグ持参促進に取り組んでいる	1	2	3	4	⇒
⑨	地域の資源回収に参加している	1	2	3	4	⇒
⑩	商品やサービスを購入する際、グリーン購入（※）を実践している ※グリーン購入：購入する際に必要性をよく考え、価格や品質だけでなく、環境への負荷ができるだけ小さいものを優先的に購入すること	1	2	3	4	⇒

「3 どちらかといえば取り組んでいない」「4 取り組んでいない」を選んだ理由

1 利便さ・快適さが損なわれる　2 従業員の理解・協力が得られない　3 費用がかかる　4 手間や時間がかかる
5 利益につながらない　6 必要だと思わない・効果に疑問がある　7 取り組む機会がない・該当しない
8 情報や知識が足りない　9 特に気にかけていない　10 その他

問7 【地下水・湧水・河川の保全】に関して、貴事業所の取組状況で当てはまるもの（1～4）を○で囲んでください。
また、3・4のいずれかを選んだ場合は、下記欄から最も近い理由1つを選び番号で記入してください。

項目		取組状況				理由
		取り組んでいる	どちらかといえば取り組んでいる	どちらかといえば取り組んでいない	取り組んでいない	3・4のいずれかを選んだ理由
①	融雪に地下水を使用しないようにしている	1	2	3	4	⇒
②	節水を心がけている	1	2	3	4	⇒
③	下水道に接続している又は、合併処理浄化槽を設置している	1			4	⇒
④	使用水量の記録や排水する水路や汚水マスの点検をしている	1	2	3	4	⇒
⑤	敷地内緑化や雨水地下浸透施設の設置など、雨水の地下浸透に取り組んでいる	1	2	3	4	⇒
⑥	河川や用水など地域の清掃活動や美化活動に参加している	1	2	3	4	⇒

「3 どちらかといえば取り組んでいない」「4 取り組んでいない」を選んだ理由

1 利便さ・快適さが損なわれる　2 従業員の理解・協力が得られない　3 費用がかかる　4 手間や時間がかかる
5 利益につながらない　6 必要だと思わない・効果に疑問がある　7 取り組む機会がない・該当しない
8 情報や知識が足りない　9 特に気にかけていない　10 その他

問8 【その他の対策】に関して、貴事業所の取組状況で当てはまるもの(1～4)を○で囲んでください。
また、3・4のいずれかを選んだ場合は、下記欄から最も近い理由1つを選び番号で記入してください。

	項目	取組状況				理由
		取り組んでいる	どちらかといえば取り組んでいる	どちらかといえば取り組んでいない	取り組んでいない	3・4のいずれかを選んだ理由
①	ISO14001やエコアクション21、KESなどの環境マネジメントシステム(※)等認証を取得(登録)している ※環境マネジメントシステム：法令などの規制基準の順守や環境保全のための計画と実行手順等	1	2	3	4	⇒
②	SDGsの推進に取り組んでいる	1	2	3	4	⇒
③	農用地や山林、野生生物の生息地等の保全に取り組んでいる	1	2	3	4	⇒
④	光害対策として、必要以上の照明設備は設置しない、カーテン等で光を漏らさないなどの取り組みを行っている	1	2	3	4	⇒

「3 どちらかといえば取り組んでいない」「4 取り組んでいない」を選んだ理由

1 利便さ・快適さが損なわれる　2 従業員の理解・協力が得られない　3 費用がかかる　4 手間や時間がかかる
5 利益につながらない　6 必要だと思わない・効果に疑問がある　7 取り組む機会がない・該当しない
8 情報や知識が足りない　9 特に気にかけていない　10 その他

◆貴事業所の課題についてお聞きします。

問9 貴事業所が環境に配慮した取り組みを実践していくうえで、課題に感じる点についてお聞きします。
次の中から該当するものを全て選び、○を付けてください。

1 知識やノウハウが不足している　2 相談先がわからない
3 取り組みを推進する人がいない　4 取り組む時間がない
5 業務量増加に見合う効果が見込めない　6 費用に見合う効果が見込めない
7 費用がかかる　8 必要性がない
9 特に課題はない　10 その他(　　)

◆市に取り組んでほしい施策についてお聞きします。

問10 貴事業所が環境に配慮した取り組みを実践していくうえで、市に取り組んでほしい施策について
次の各項目の中から、3つを番号で記入してください。

1 環境負荷を減らす設備導入に対する助成
2 取組事例やガイドライン、関係法令等の情報提供
3 事業者の取組事例等の情報発信
4 研究・学習・活動のための施設整備や拠点づくり
5 事業者や社員向けの研修会の開催
6 監視体制や規制の強化
7 取組を促すための制度や仕組みづくり
8 自然資源を活用した都市間交流や働きかけ
9 地下水や地球環境などの調査研究
10 市民意識を高めるための環境教育・普及啓発の実施
11 その他(　　)

◆「カーボンニュートラル」についてお聞きします。

問11 「カーボンニュートラル」について当てはまるものを○で囲んでください。

①	大野市は2035年までに温室効果ガスの排出量を全体としてゼロにするという「カーボンニュートラル」を目標に掲げ、その達成に向けて取り組んでいることを知っていますか。	1 目標を知っており、取組内容も理解している 2 目標を知っているが、取組内容は理解していない 3 目標は知らなかったが、取組内容は理解している 4 目標を知らなかったし、取組内容も理解していない

◆貴事業所の概要についてお聞きします。

問12 貴事業所の業種を教えてください。次の各項目の中からあてはまる番号に○を付けてください。

1 農業　2 建設業　3 製造業　4 電気・ガス・熱供給・水道業　5 運輸・通信業
6 卸売・小売業・飲食店　7 金融・保険業　8 不動産業　9 サービス業
10 その他(事業内容　　)

問13 貴事業所の従業員規模(パート、アルバイト等を含む)を教えてください。次の各項目の中からあてはまる番号に○を付けてください。

1 1～10名未満　2 10～30名未満　3 30～50名未満　4 50～100名未満
5 100～200名未満　6 200名以上

◆貴事業所の取組事例についてお聞きします。

問14 貴事業所において、ごみ減量や省エネ対策などの環境に配慮した取り組みを行い、成果を得ることができた事例がありましたら記入をお願いします。

例) 暖房は重油を使用していたが、灯油(ストーブ等使用)による暖房を行うことで、燃料費が年間○○○○円削減できた。

◆自由意見

問15 大野市の環境をより良いものとするため、アイデアやお考えがあればご自由にお書きください。

アンケートは以上で終了です。ご協力ありがとうございました。

環境・水に関するアンケート調査票
【小学6年生・中学3年生向け】

大野市は、「第三期大野市環境基本計画」及び「大野市水循環基本計画」を定めて、豊かな自然環境や快適な生活環境、恵まれた水環境などを守り、活用するためのさまざまな取り組みを進めています。

このたび、将来の大野市の環境や水を守っていく役割を担う子どもたちのご意見をお聞きし、2つの計画の見直しや今後の取り組みの参考とするため、小学6年生・中学3年生の皆さんを対象にアンケート調査を行うことにしました。

つきましては、次のアンケートにご協力をお願いします。

大野市長　石山志保

※調査は無記名とし、個々のお答えを外部に公表することはしません。
※回答に要する時間は、おおむね5分です。

【参考】見直しを行う計画

第三期大野市環境基本計画

大野市水循環基本計画

【調査主体】大野市　くらし環境部　環境・水循環課

問1　あなたの性別はどちらですか。あてはまる番号に○をつけてください。
1 男　　2 女　　3 答えない

問2　あなたの学年を教えてください。あてはまる番号に○をつけてください。
1 小学6年生　　2 中学3年生

問3　次の項目の中から、家の周りの身近な環境（家の周りなど）で特に大切にしたいと思うものを3つ選んで番号を書いてください。

	大切にしたいもの（3つ）
① 緑の豊かさ	記入欄
② 自然（林、水辺、動植物、昆虫）が身近にあること	
③ 空気のきれいさ	
④ 星空の美しさ	
⑤ においが気にならないこと（悪臭がしない）	
⑥ 川（河川・用水路）のきれいさ	
⑦ 地下水のきれいさ	
⑧ まちの静かさ（騒音、振動が気にならない）	
⑨ まちの清潔さ（ごみの少なさ）	
⑩ 景色や街並みの美しさ	
⑪ 歴史的な建物や地区の祭り・伝統行事が残っていること	
⑫ 市民のマナーの良さ（ポイ捨てしない・ごみ分別をするなど）	
⑬ 暮らしの安全性（有害な物質から守られていること）	

問4　次の環境問題の中から、「知りたい」又は「学びたい」と思うすべての項目に○をつけてください。

	知りたい学びたい
① ごみが増えすぎている問題	
② 二酸化炭素などにより地球の気候が変動している問題	
③ 自然（森や川、緑）が失われる問題	
④ 絶滅しそうな動植物や昆虫がいる問題	
⑤ 地下水の使い過ぎなどで飲み水などが使えなくなる問題	
⑥ 資源やエネルギーが少なくなっている問題	
⑦ 自動車や工場などからの排気ガスなどによって空気がよごれる問題	
⑧ 家庭や工場などから流れ出る水などによって川の水がよごれる問題	
⑨ 地下水がよごれて、飲み水などが使えなくなる問題	
⑩ 自動車や工場などからの騒音、振動で迷惑する問題	
⑪ 外でものを燃やすけむりや工場から嫌なにおいが出される問題	

問5　あなたがふだん、学校や家で取り組んでいる環境にやさしい行動について、あてはまる番号に○をつけてください。

	いつも取り組んでいる	ときどき取り組んでいる	あまり取り組んでいない	まったく取り組んでいない	わからない
① 蛇口やシャワーをこまめに止めるなど、水のむだ使いをしないようにしている	1	2	3	4	5
② 買い物では、マイバッグを持っていき、レジ袋を受け取らないようにしている	1	2	3	4	5
③ 空き缶やペットボトルは分別をしている	1	2	3	4	5
④ エコマークなどが付いている商品やリサイクル品など、環境にやさしい商品を選んで買っている	1	2	3	4	5
⑤ 川遊びやスキー、キャンプ、自然観察などを通じて、大野の自然にふれあい、楽しんでいる	1	2	3	4	5
⑥ 食べ物は残さず食べている	1	2	3	4	5
⑦ お菓子のから箱やメモ用紙などは分別し、燃やせるごみには出さないようにしている	1	2	3	4	5
⑧ エアコンの設定温度を下げすぎ(上げすぎ)ないようにしている	1	2	3	4	5
⑨ 人のいない部屋の照明や見ていないテレビ等の家電はつけっぱなしにしないようにしている	1	2	3	4	5
⑩ 物は大切にして長く使うようにしている	1	2	3	4	5

問6　大野市やあなたの家の周りなどの環境を守るために、あなたができること、参加したいと思うことを3つ選んで番号を書いてください。

	できること 参加したいこと (3つ)
① 新聞やアルミ缶などの資源回収	記入欄
② ごみや空き缶拾いなどの地域をきれいにする活動	
③ 草花などを植える活動	
④ 地下水の水質や量などを調べるイベントへの参加	
⑤ 田畑や林・森・山を守る活動	
⑥ 身近な自然(動植物や昆虫・化石)の観察会	
⑦ 外来生物(もともとその地域にいなかった動植物)を見つけて追い払う活動	
⑧ 野外キャンプなどの自然を体験するイベント	
⑨ 農作業の手伝いや体験農園などでの農作業体験	
⑩ 星空の観察	
⑪ 歴史的・文化的なまちなみや風景を巡るイベント	
⑫ ごみ処理施設や下水処理施設などの見学	
⑬ フリーマーケットやバザーなどへの参加	
⑭ 地球環境問題を体験的に学ぶイベント	
⑮ 都会の小中学生との、大野の自然の中での交流	
⑯ 御清水や中野清水などの湧水地をきれいにする活動	
⑰ 雨水をためて、花などの水やりに使う活動	

問7　大野市の地下水に関してお聞きします。
次の項目について、あてはまるものに○をつけてください。

【地下水の水位を計測する市民】

① 毎日、市民が市内16ヶ所で地下水の水位を計測して、掲示板でお知らせしていることを知っていますか。

1 知っている　・　2 知らない

② 掲示板で地下水の水位をお知らせすることは、市民にとって大切なことだと思いますか。

1 思う ・ 2 どちらかといえば思う ・ 3 どちらかといえば思わない ・ 4 思わない

問8　将来、大野市内で環境や水に関わる仕事(※)につきたいと思いますか。

(※環境や水に関わる仕事の例)
・ごみの収集や運ばんを行う仕事(ごみ収集運ばん業)
・森林を管理し、木材を生産する仕事(林業)
・水道管の工事や、台所や風呂場の工事を行う仕事(水道工事業)
・名水を活用した商品の販売を行う仕事(飲食業や酒・調味料などをつくる業種)　など

1 思う ・ 2 どちらかといえば思う ・ 3 どちらかといえば思わない ・ 4 思わない

問9　大野市内で、あなたにとってお気に入りの場所や風景などはありますか。

1 ある　・　2 ない

問10　(問9で「1 ある」と回答した人へ)
お気に入りの場所や風景などを3つ以内で書いてください。
また、なぜそう思うのか、その理由も書いてください。

(例)御清水⇒冷たくておいしいから　○○川⇒夏に泳ぐことができて楽しいから
イトヨの里⇒イトヨを観察できるから　△△からのながめ⇒ながめがいいから　など

①	(お気に入りの場所や風景など) (理由)
②	(お気に入りの場所や風景など) (理由)
③	(お気に入りの場所や風景など) (理由)

アンケートは以上で終了です。ご協力ありがとうございました。